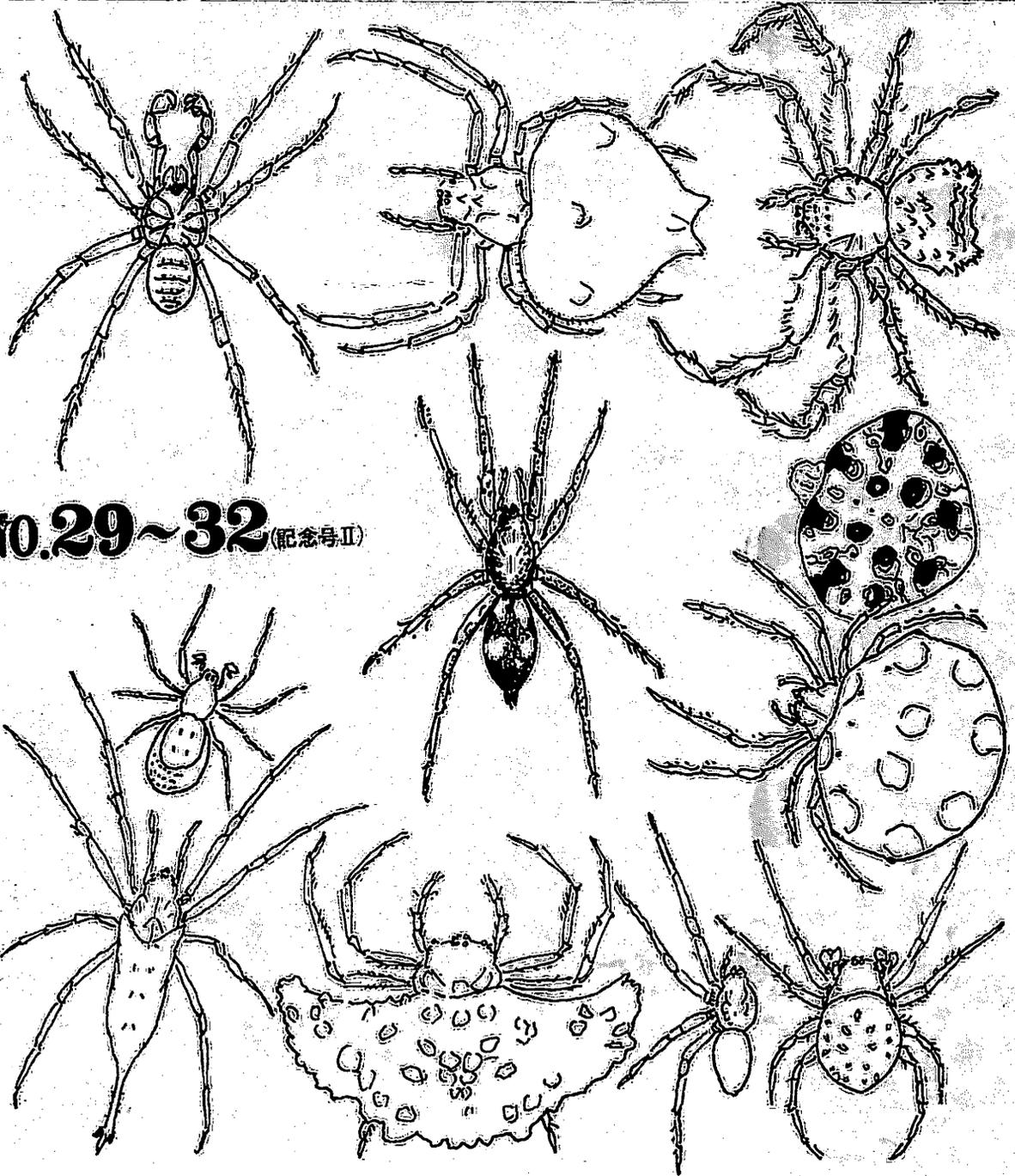


東京蜘蛛談話会誌

# KISHIDAIA



0.29~32 (記念号II)

東京蜘蛛談話会 東京都日野市豊田1.896 萱嶋泉方(TEL.0425-81-7128)

東京蜘蛛談話会 5 周年記念号    ( I )

— 目                      次 —

|                        |         |        |
|------------------------|---------|--------|
| 静岡県沼津市のクモ .....        | 小野展嗣    | ( 1 )  |
| 丹沢山塊の蜘蛛 .....          | 山川守     | ( 4 )  |
| 山道にて(ドクグモとコモリグモ) ..... | 松本誠治    | ( 5 )  |
| 採集ノート(I) .....         | 松本誠治    | ( 8 )  |
| 真正蜘蛛各地の同定目録 .....      | 権田重雄    | ( 9 )  |
| クモの記事(6) .....         | 国見裕久    | ( 13 ) |
| 滝山城跡公園のクモ .....        | 東京蜘蛛談話会 | ( 15 ) |
| 清澄山の真正蜘蛛類 .....        | 東京蜘蛛談話会 | ( 18 ) |
| 奥秩父のクモ .....           | 東京蜘蛛談話会 | ( 26 ) |
| クモの同定ポイント .....        | 東京蜘蛛談話会 | ( 34 ) |

---

|                             |          |        |
|-----------------------------|----------|--------|
| 感想文 .....                   | 石山・国見・権田 | ( 37 ) |
| 東京蜘蛛談話会 1971年の活動を省りみて ..... |          | ( 39 ) |
| 迷 蛛 .....                   | 小野展嗣     | ( 14 ) |
| クモの文献斡旋 .....               |          | ( 40 ) |
| 編集後記 .....                  | 虎・竜      | ( 42 ) |

---

# 静岡県沼津市のクモ

小 野 展 嗣

1969年の夏期7月10日から17日までの8日間にわたって、筆者は静岡県沼津市の学習院游泳場における水泳合宿に参加し、その際自由時間を利用して同游泳場内のクモ類の観察を行った。小地域の貧弱な記録ではあるが、今後同游泳場へ行く機会もないと思うので、とりあえず同定のすんでいるものを公表する。これが静岡県の Spider fauna研究の小資料ともなれば幸いである。

游泳場は沼津市の南部、狩野川の河口と獅子浜との中程、砂浜に面した面積23,000㎡ほどの小地域である。砂の多い土質で松の大木以外たいした樹木も見られず環境的には貧弱で変化がなく、クモも注目に値するものはわずかで特に造網性のもでは見るべきものもなかったが、フクログモ科やハエトリグモ科において若干おもしろいものが採れた。

末筆ながら、若干種の同定をお願いした新海栄一、松本誠治両氏に、また採集に協力された不破福三氏に感謝の意を表する。

なお、学名の配列は八木沼健夫「日本の真正蜘蛛類相」(1970)による。

- |   |            |
|---|------------|
| CTENIZIDAE  | トタテグモ科     |
| 1. <i>Ummidia fragaria</i> (Doenitz)                    | キノボリトタテグモ  |
| DICTYNIDAE  | ハグモ科       |
| 2. <i>Dictyna foliicola</i> Boes.et.Str.                | ヒナハグモ      |
| SEGESTRIIDAE  | エンマグモ科     |
| 3. <i>Ariadna lateralis</i> (Karsch)                    | ミヤグモ       |
| SOYTODIDAE  | ヤマシログモ科    |
| 4. <i>Scytodes thoracica</i> (Latreille)                | ユカタヤマシログモ  |
| THERIDIIDAE   | ヒメグモ科      |
| 5. <i>Enoplognatha transversifoveata</i> (Boes.et.Str.) | カレハヒメグモ    |
| 6. <i>Theridion ferrumequiaum</i> Boes.et.Str.          | ヒザブトヒメグモ   |
| 7. <i>T. japonicum</i> Boes.et.Str.                     | ヒメグモ       |
| 8. <i>T. tepidariorum</i> (C. Koch)                     | オオヒメグモ     |
| 9. <i>T. subpallens</i> Boes.et.Str.                    | ハイイロヒメグモ米1 |
| LINYPHIIDAE   | サラグモ科      |
| 10. <i>Linyphia oidedicata</i> (Helsdingen)             | ヘリジロサラグモ   |
| ARGIOPIDAE  | コガネグモ科     |
| 11. <i>Araneus ventricosus</i> (L. Koch)                | オニグモ       |
| 12. <i>Yaginumia sia</i> (Strand)                       | ズグロオニグモ    |
| 13. <i>Argiope bruennichii</i> (Scopoli)                | ナガコガネグモ    |

- |   |                           |
|---|---------------------------|
| 14. <i>Cyclosa octotuberculata</i> Karsch           | ゴミグモ                      |
| 15. <i>Nephila clavata</i> L. Koch                  | ジヨロウグモ                    |
| <b>TETRAGNATHIDAE</b>                               |                           |
|   | アシナガグモ科                   |
| 16. <i>Leucauge blanda</i> (L. Koch)                | チノウガタシロカネグモ               |
| 17. <i>L. subblanda</i> Boes. et. Str.              | コシロカネグモ                   |
| <b>AGELENIDAE</b>                                   |                           |
|   | タナグモ科                     |
| 18. <i>Agelena limbata</i> Thorell                  | クサグモ                      |
| 19. <i>A. opulenta</i> L. Koch                      | コクサグモ                     |
| 20. <i>Ooelotes modestus</i> Simon                  | ヤマヤチグモ                    |
| <b>PISAURIDAE</b>                                   |                           |
|   | キシダグモ科                    |
| 21. <i>Pisaura lama</i> Boes. et. Str.              | アズマキシダグモ                  |
| <b>LYCOSIDAE</b>                                    |                           |
|   | ドクグモ(コモリグモ)科              |
| 22. <i>Lycosa coelestis</i> L. Koch                 | ハラクロドクグモ(ハラクロコモリグモ)       |
| 23. <i>Pirata subpiraticus</i> (Boes. et. Str.)     | キバラドクグモ(キバラコモリグモ)         |
| <b>OXYOPIDAE</b>                                    |                           |
|   | ササグモ科                     |
| 24. <i>Oxyopes sertatus</i> L. Koch                 | ササグモ                      |
| <b>THOMISIDAE</b>                                   |                           |
|   | カニグモ科                     |
| 25. <i>Coriarachne fulvipes</i> (Karsch)            | コカニグモ                     |
| 26. <i>Misumenopus tricuspidatus</i> (Fabricius)    | ハナグモ                      |
| 27. <i>Philodromus spinatarsis</i> Simon            | キハダエビグモ                   |
| 28. <i>Thomisus labefactus</i> Karsch               | アズチグモ                     |
| 29. <i>Thanatus formicinus</i> (Olerck)             | ヤドカリグモ                    |
| 30. <i>Xysticus saganus</i> Boes. et. Str.          | オオミヤイロカニグモ                |
| <b>SALTICIDAE</b>                                   |                           |
|   | ハエトリグモ科 米 <sup>2</sup>    |
| 31. <i>Aelurillus festivus</i> L. Koch              | ヤマジハエトリ 米 <sup>3</sup>    |
| 32. <i>Euophrys undulato vittata</i> Boes. et. Str. | イナズマハエトリ                  |
| 33. <i>Harmochirus</i> sp.                          | ウデブトハエトリ一種 米 <sup>4</sup> |
| 34. <i>Jotus linea</i> (Karsch)                     | メガネアサヒハエトリ                |
| 35. <i>Marpissa confusus</i> Boes. et. Str.         | シラヒゲハエトリ                  |
| 36. <i>Plexippus paykulli</i> (Audouin)             | チヤスジハエトリ                  |
| 37. <i>P. setipes</i> Karsch                        | ミスジハエトリ                   |
| 38. <i>Silerella vittata</i> (Karsch)               | アオオビハエトリ                  |
| <b>OLUBIONIDAE</b>                                  |                           |
|   | フクログモ科                    |
| 39. <i>Chiracanthium unicum</i> Boes. et. Str.      | ヤサコマチグモ                   |
| 40. <i>Olubiona jucunda</i> (Karsch)                | ヤハズフクログモ                  |
| 41. <i>Orthobula crucifera</i> Boes. et. Str.       | オトヒメグモ                    |

|  |             |
|--|-------------|
| 42. <i>Phrurolithus</i> sp.              | ウラシマグモ一種 *5 |
| HETEROPODIDAE                            | アシダカグモ科     |
| 43. <i>Heteropoda forcipata</i> (Karsch) | コアシダカグモ     |
| 44. <i>H. venatoria</i> (Linné)          | アシダカグモ      |
| OTENIDAE                                 | シボグモ科       |
| 45. <i>Anahita fauna</i> Karsch          | シボグモ        |

米1：本種は1906年、Boesenberg及びStrandによって佐賀県より新種として記載されたが、原記載以来古く北海道釧路と岩手県盛岡の採集記録があるのみだった。しかし、最近東京、神奈川など各地で採集されており、既知産地（北海道・岩手・東京・神奈川・静岡・台湾台北市）から見て全国に広く分布するものと思われる。今後注意が必要である。詳しくは新海栄一氏の報文〔日本私学教育研究所紀要 5（1970）、ATYPUS 54（1970）昆虫と自然 Vol.6 2（1971）〕を参照されたい。

米2：ハエトリグモ科のものではこの他にも種名の判名しないものが若干採集されている。

米3：本種はヨーロッパからシベリア、中国にまで広汎に分布する旧北区系の種類で、日本においては、片岡佐太郎によって1969年に記録された。既知産地は今回記録も含めて岩手・宮城・山形・秋田・東京・静岡・三重・京都・兵庫・愛媛である。本種のような北方系のクモとチヌウガタソコカネグモのような南方系のクモが同一場所で採集されたことは、当地が本州南岸線の近くに位置することからうなづけることである。

米4：日本産の *Harmochirus* は *H. brachiatus* (Thorell) ただ一種が知られていたが、多くの個体を見るとたいへんよく似た別種が混っていることが分った。背甲及び第1脚が非常に特徴があるので従来 *Harmochirus* であれば *H. brachiatus* に同定されてきた傾向があるので注意が必要である。♂の Palp 及び♀の Epigynum を比較すればはっぴと分るが *H. brachiatus* には♀♂共腹部上面後方に一本の白色横帯がある点で簡単に区別出来る。（ただし、途中で切れているものや不明瞭な個体もあるので注意を要する。）*H. brachiatus* は東洋区系のクモで日本南部各地で採集されているが *H. sp.* は当地の他東京都御蔵島、埼玉県戸田、静岡県天城高原で採れている。（いずれも♂ばかりなので♀を採集された方はぜひ見せて下さい。）本種は下草上を主に徘徊し時に石の下で採集されることもあるが *H. brachiatus* の方は樹上に生活しており夏期は葉上を徘徊する。冬期には枯葉に出口のない袋状住居を作り成体で越冬することが多いので森林などの落葉から採集される。時に、Tullgren-funnel によって litter から得られることもある。今後注意が必要である。

米5：本種は体長7～8mmの比較的大型のウラシマグモで、石などをはぐるとはい出してくるのを多数採集した。生きている時は腹部や歩脚に光沢のある黄金色の環があり、ゆるやかに歩く姿は非常に美しい。現在新海氏によって詳査されている。

# 丹 沢 山 塊 の 蜘蛛

山 川 守

1970年度より高橋登、熊田憲一両君と共に丹沢山塊の真正蜘蛛類の調査を行い、1971年10月2日現在、28科192種を記録した。

今後も調査活動を続け、標本の整理、同定および調査がある程度進んだ段階で全種類のリストを発表したいと思うが、今回その中の代表的なものをここに上げて発表したい。

なお、昨年度より指導、標本の同定等いろいろお世話になっている東京蜘蛛談話会の新海栄一氏、また貴重な標本を提供して下さった法政二高生物部OBの中村憲一氏に感謝の意を表したい。

※記録中1970年以前のは予備調査段階のものである。

まず、最初 *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch) カネコトタテグモ でありますが大山を中心に広く分布し、個体数も比較的多いように思われる。

しかし、この丹沢も林道、登山道の整備、登山観光客の増大等により棲息環境が破壊されつつあり、今後棲息状態を見守る必要がある。

次にコガネグモ科オニグモ属では、丹沢において広範囲に分布していると思われる *Araneus viperifer* Schenkel カラオニグモ 19-VII-1970 道志竹之本♀(高橋)、21-XI-1970 飯山観音♀、他玄倉、東野(山川)、また関東以北で多く採集されているという *A. variegatus* Yaginuma ニシキオニグモ 2-X-1971 東野♀(山川)。ナカムラオニグモ線で有名な *A. cornutus* Olerck ナカムラオニグモ 東野、道志竹之本(高橋、山川)。1969年新種となった *A. viridiventris* Yaginuma ハラビロミドリオニグモ 20-VII-1970 道志池之原♀ 発見撮影(熊田)。

トリノフンダマン属では、関東地方では他に千葉で記録されている *Oxytarachne nigra* Yaginuma クロトリノフンダマン 20-VII-1968 中川♀(中村)。同じく千葉と東京で記録されている *O. yunoharuensis* Strand アオイロトリノフンダマン 6-VIII-1970 物見峠♀(山川)。それに参考記録として *Poltyx illepidus* O. Koch ゲホウグモの卵のう確認 21-VIII-1971 仏果山(熊田)などがある。

そのほかアシナガクモ科では高地性〔寒地性〕の蜘蛛である *Menosira ornata* Chikuni キンヨウグモ 22-VII-1970 道志竹之本♂(山川)。

山奥ではめずらしいと思われる *Heteropoda venatoria* (Linné) アシダカグモ科アシダカグモ 18-VII-1967 札掛♀も確認できた。

このように丹沢山塊は気温、地形等の変化に恵まれている為に南北両系の蜘蛛が採集でき、興味ある地域である。今後ビーティング、シフティング等の採集方法を取り入れる事によって記録種も増えるものと思われるが、採集のみに拘らず生態観察も共に行って行きたい。

# 山道にて (ドクグモとコモリグモ)

松本誠治

7月のある日曜日、例によって僕はカメラとアルコール瓶を持って外に出た。山についてみると、梅雨のあけたすぐの日曜のせいか、随分人が出ていた。(しまった、今日はまずかった。)と思ったが覚悟を決めて、山道を登り始めた。道端を眺めながら、ゆっくりと歩いている僕をあとから来た人達は、うさんくさそうに眺めながら追い越して行く。ポータブルラジオのボリュームをかなりあげて男女数名がこちらを見ながら通り過ぎて行った。「何をしているのかしら、あの人」「何かの写真を撮るんだな、草か石の」「瓶の中に何か入っている。虫だな。虫の写真を撮っているんだな」「へえ一。虫ね。弟がいま集めているわ。気持悪くていやね。」こんな話は、小さな声でもよく聞こえてしまう。僕から見れば、山の中にまでラジオを持ち込んだり、わきめもふらずに頂上を目指すような文明病に犯された人達の方をうさんくさく見たくなる。

「何かいるんですか」

(アア、ついに来た)「ええ」

「何ですか」

「虫です」

「はあ、虫ですか。写真撮っているんですか」

「ええ」

「どんな虫ですか」

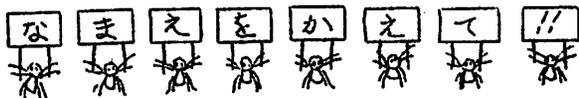
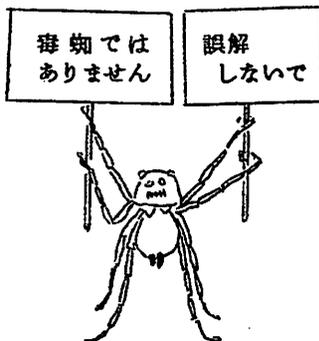
(なかなかしつこいぞ)「クモです」と言ってアルコール瓶を見せた。

「ああ、クモですか。随分いますね。みんな違う種類ですか」

「ええ、だいたい」

「日本にはどのぐらいいるんですか」

「今、わかっているのが800種ぐらいですけど、もっといるらしいですね」



「ほり、そんなにいるんですか。あっ、まだ動いていますね。この水は何ですか」

（ふり、あきらめよう。）「アルコールです」

「クモはアルコールで殺すんですか。昆虫みたいに乾燥標本には出来ないんですか。変色しませんか」

「普通に乾燥させると腹部がつぶれてしまうんで、研究用にはアルコール漬けにするのがいいんですけど、赤や緑は変色しますね」

「この黒と黄色の縞のあるのがコガネグモですね。ハエトリグモもいますね。これは可愛いですね」

（おもしろくなってきたぞ。他の人とはちよっと違うな。）「ええ、ずいぶんよくご存じですね。あつめられているんですか」

「いやあ、別に。ただ、中学に勤めているもので。子供達がいろんなものを持って来るもので、名前ぐらいはおしえてやらないといけませんから……。ところで、ドクグモっていうのがいますが、毒を持っているんですか。よく本などに書いてありますね、小説なんかにも。生徒達のクモのキラいな原因の一つになっているように思うんですが。私もさわるのはちよっとこわいですね。特に大きいのは見ただけでゾツとしますね。ほら、ええと、あのう、アシダカグモっていうのなんか」

「毒を持っているといっても、たいていのものは昆虫などにきくぐらいの程度ですよ。まあ、確かにアシダカグモになんかかみつかれると痛いですが、毒でどうかなるなんてことはないですよ。外国にはかなり毒の強いのがいるようですし、日本にも、カバキコマチグモというのが問題にされたことはありますね」

「ほり、ドクグモではないんですね」

「ええ、ただ和名でドクグモというのはいますね。ああ、そこにいるのです。尻に卵のうをつけている。ええ、それです」

「毒は強いんですか」

「いいえ、そんなに大きくないし、咬まれても痛くありませんよ。このクモは、卵のうから出て来る子グモを、一時背負って歩く習性があるって、よく母性愛なんていう例に使われますよ」

「それでなんでドクグモなんですか。私達が知らないで聞くとやっぱりこわいんですね。ドクグモなんて名がついていると」

「この仲間ではイタリアなんかにいるのが、強い毒を持っているらしいので、それにちなんでっていうんですか、まあ、和名もそうしたらいいんですが、以前は、子引きグモといったそうです。今でも別名にコモリグモというのを使っていますね」

「コモリグモですか。なかなかいい名前ですね」

「ええ、いい名前ですね、この方が。こわい名前でもないし、クモの生活を見ているとよくわかるんですから、かなり説得力のある名前のように思うんですがね」

「名前を変えたらどうですか、そのコモリグモっていうのに。ドクグモっていうのはうまくないですね。生徒達にも教えやすい名前ですよ」

「ええ、でも、和名も学名と同じように統一しておかないとメチャメチャになるんで、簡単に変えられないんですよ。今ではだいぶ定着して来たんで、また混乱させてしまうかも知れませんが、変

えるのがいいかどうか」

「変えた方がいいですよ。クモが嫌いな原因の一つに毒があることなんかがいわれているなら、今後も誤解されないためには、今変えてしまう方がいいですよ。あ、すみません。部外者が勝手なことをいって」

「いいえ、とても参考になりますから。確かに僕達も、個人的には変えた方がいいと思っているんですが、標準和名になりつつあるものを、無闇に変えるのはいけないと思うと、ついそのままにしてしまうんですよ。もし変えるとする、学会の総会でも決議するといいますが、あるいは、アンケートをとって集計してみるとか。いづれにしても個人で変えるのはよくないとは思いますが」

「どうもむずかしいですね。早ければ早い程、新しい名前の定着もよくなりますから、ぜひかえてほしいですね。僕はそのコモリグモっていうのに賛成だなあ」

「どうもありがとうございます」といって、顔を見合せて僕達は笑った。

「ところで、外国では何ていっているんですか。Poison spider ですか」

「いいえ、多くは知りませんが、英語では Wolf spider っていうし、ドイツ語でも、Wolf spinne といいますね。これも習性から来た名前でしょうね」

「オオカミグモですか。コモリグモよりはこわい名ですからあまりうまくないですね。でも、外国と同じという点ではいいかも知れませんね」

「ええ、科名も Lycosidae といいますからね。もっとも、この Lycosa というのが、ラテン語のオオカミですが、この Lycosa という属のクモばかりじゃありませんから、例えば、Paradisa とか Pirata とかいうのもいますから、このクモ全部にオオカミグモの名前をつける必要もないんです」

「そうですね」

「どちらかといえば、僕は和名から学名を思い出せるといいと思っているんです。例えば、Lycosa という属名のついているクモには、オオカミグモと名前をつけたり、Pirata には、これは海賊という意味なんです、カイゾクグモとするというぐあいなんです」

「ドクグモといい、オオカミ・カイゾクといい、どうもこわいのばかりですね。僕達には、コモリグモがいちばんいいですね」

「そうですね。でも、機械的にドクグモからコモリグモにするのはどうでしょうかね。しかたないのかな。どうも能の無い話だと思っただけですよ。例えば、さっきのカイゾクドクグモなんていうのは、カイゾクコモリグモになるわけですね。どうもピンとこないんだな。機械的な変更は」

「うーん、むずかしいですね。そういう話になると、僕になんかとうていわからなくなってしまいますが、僕達が普通に使うのは和名なんですから、この和名を親しみやすい、覚えやすいのにはしてほしいですね。そして、学問的にも納得のいく名前なんていうと、つけるのはむずかしいですね。植物にはいい名前がありますね。考え方によっては、キクでもないのにキクといってみたり、ランでもないのにランだったり、かなりランダムですね」

「はっはっ、シャレが出ましたね。それでコンランするですか」

「はっはっ、こいつはまった。いやあ、すっかりおじゃましてどうも迷惑さまでした。どうも失礼します」

「いいえ、こちらこそ、大変勉強になりました。ありがとうございました」

「それでは」といって、彼はまた山を登り出した。

「では」といって後姿を見送りながら、僕は、ドクグモ・コモリグモ。ドクグモ・コモリグモと考え、コモリグモの名がどんどん大きくなるのを感じた。いつになくさわやかな気分でカメラの方を見ると、三脚のそばに、ウズキコモリグモが子グモを背負って、日向ぼっこをしていた。

## 採 集 ノ ー ト (I)

松 本 誠 治

採 集 地：千葉県銚子市（名洗町の塵芥処理場附近）

採 集 日：1970年5月4日・5日

採集総数：61個体

採 集 者：松本誠治

- |  |             |
|--|-------------|
| 1. <u>Anelosimus crassipes</u> (Boes. et Str., 1906)           | アシプトヒメグモ    |
| 2. <u>Dipoena mustelina</u> (Simon, 1888)                      | カニミジグモ      |
| 3. <u>Enoplognatha transversifoveata</u> (Boes. et Str., 1906) | カレハ<br>ヒメグモ |
| 4. <u>Theridion subadultum</u> Boes. et Str., 1906)            | コケヒメグモ      |
| 5. <u>Theridion tepidariorum</u> O.Koch, 1841                  | オオヒメグモ      |
| 6. <u>Linyphia oidedicata</u> (Heldsingen, 1969)               | ヘリジロサラグモ    |
| 7. <u>Ero japonica</u> Boes. et Str., 1906                     | センシヨウグモ     |
| 8. <u>Mysmena jobi</u> Kraus, 1967                             | ナンブコツブグモ    |
| 9. <u>Araneus ejusmodi</u> Boes. et Str., 1906                 | ヌサオニグモ      |
| 10. <u>Araneus fuscocoloratus</u> Boes. et Str., 1906          | ヤミイロオニグモ    |
| 11. <u>Misumenops tricuspidatus</u> (Fabricius, 1775)          | ハナグモ        |
| 12. <u>Oxytate striatipes</u> L.Koch, 1877                     | ワカバグモ       |
| 13. <u>Carrhotus detritus</u> Boes. et Str., 1906              | ネコハエトリ      |
| 14. <u>Clubiona jucunda</u> (Karsch, 1879)                     | ヤハズフクログモ    |

このほかに成熟個体として、*Clubiona* sp.(♀)と、*Tetragnatha* sp.(♀)を採集。

# 真正蜘蛛各地の同定目録

権 田 重 雄

筆者が各地で採集したものや、友人から提供された標本がいくらかあるのでここに報告しておく。  
いずれも採集記録の少ないところなので、今後のクモ相の調査の参考にでもなれば幸いである。

I 山梨県大菩薩(裂石-丸川峠-大菩薩嶺) Date June, 26th, 1970  
Col. S. Gonda

当地からは大河内哲二氏によりKISHIDAIA誌9号に41種が報告されている。

なお今回米印12種が加わり、大菩薩のクモは53種となる。

- |  |            |
|--|------------|
| 1. <i>Enoplognatha margarita yaginuma</i>      | シロタマヒメグモ   |
| 本種は本州中部山岳地域に局地的に分布するようである。                     |            |
| 高度1,000mから1,400mにかけて普通に見られた。                   |            |
| *2. <i>Theridion latifolium yaginuma</i>       | ヒロハヒメグモ    |
| *3. T. <i>sterninotatum</i> Boes. et Str.      | ムナボシヒメグモ   |
| 4. T. <i>takayense</i> Saito                   | タカユヒメグモ    |
| 5. <i>Nesticus</i> sp. ♂, 長肢系                  | ホラヒメグモ一種   |
| 6. <i>Linyphia oidedicata</i> (Helsdingen)     | ヘリジロサラグモ   |
| *7. <i>Neolinyphia japonica</i> Oi             | ツリサラグモ     |
| 8. <i>Strandella quadrimaculata</i> (Uyemura)  | ヨツボシアカムネグモ |
| 9. <i>Araneus pinguis</i> (Karsch)             | キザハシオニグモ   |
| 10. A. sp. ♀                                   | オニグモ一種     |
| *11. <i>Pronous minutus</i> (Saito)            | コオニグモモドキ   |
| 12. <i>Ocylosa argenteoalba</i> Boes. et Str.  | ギンメッキゴミグモ  |
| *13. <i>Tetragnatha pinicola</i> L. Koch       | フノジグモ      |
| *14. <i>Philodromus aureolus</i> Clerck        | コガネエビグモ    |
| 15. <i>Synaema globosum japonicum</i> Karsch   | フノジグモ      |
| 16. <i>Xysticus</i> sp.                        | カニグモ一種     |
| *17. <i>Evarcha albaria</i> (L. Koch)          | マミジロハエトリ   |
| *18. <i>Hasarius adansonii</i> (Audouin)       | アダンソンハエトリ  |
| *19. <i>Marpissa elongata</i> (Karsch)         | ヤハズハエトリ    |
| *20. M. <i>magister</i> (Karsch)               | オスクロハエトリ   |
| *21. <i>Plexippus incognitus</i> Doen. et Str. | ウススジハエトリ   |
| 22. <i>Silerella vittata</i> (Karsch)          | アオオビハエトリ   |

23. *Olubiona* sp.  
 \*24. *Singa sanguinea* O.Koch

フクログモ一種  
 シロスジシヨウジウグモ

II 埼玉県正丸峠

Date May, 5th, 1970

Col. Y. Yamamoto, M. Takano

- |  |            |
|--|------------|
| 1. <i>Theridion tepidariorum</i> (O.Koch)      | オオヒメグモ     |
| 2. <i>T. yunohamense</i> Boes. et Str.         | ユノハマヒメグモ   |
| 3. <i>Doenitzius peniculus</i> Oi              | デーニツサラグモ   |
| 4. <i>Neolinyphia fusca</i> Oi                 | クスマサラダグモ   |
| 5. <i>Yaginomia sia</i> (Strand)               | ズグロオニグモ    |
| 6. <i>Zilla sachalinensis</i> (Saito)          | カラフトオニグモ   |
| 7. <i>Oyclosa argenteoalba</i> Boes. et Str.   | ギンメッキゴミグモ  |
| 8. <i>O. sedeculata</i> Karsch                 | ヨツデゴミグモ    |
| 9. <i>Meta kompirensis</i> Boes. et Str.       | タニマノドヨウグモ  |
| 10. <i>M. yunohamensis</i> Boes. et Str.       | メガネドヨウグモ   |
| 11. <i>Cybaeus</i> sp. ♀                       | ナミグモ一種     |
| 12. <i>Ooelotes modestus</i> Simon             | ヤマヤチグモ     |
| 13. <i>Arctosa ebicha yaginuma</i>             | エビチャドクグモ   |
| 14. <i>Myrmarachne japonica</i> (Karsch)       | アリグモ       |
| 15. <i>Phrurolithus claripes</i> Doen. et Str. | イナズマウラシマグモ |
| 16. <i>Trachelas japonicus</i> Boes. et Str.   | ネコグモ       |
| 17. <i>Anahita fauna</i> Karsch                | シボグモ       |
| 18. <i>Plexippus incognitus</i> Doen. et Str.  | ウススジハエトリ   |

III 神奈川県真鶴岬

Date May, 31st, 1970

Col. S. Gonda

- |   |             |
|---|-------------|
| 1. <i>Ischnothyreus narutomii</i> (Nakatsudi)   | ナルトミダニグモ    |
| 2. <i>Ariannes cylindrogaster</i> Simon         | オナガグモ       |
| 3. <i>Dipoepa flavomarginata</i> Boes. et Str.  | キベリミジングモ    |
| 既知産地：宮崎・伊豆新島・式根島・千葉県南部・能登半島・東京都八王子市             |             |
| 4. <i>Stemmops nipponicus</i> Yaginuma          | スネグロオチバヒメグモ |
| 5. <i>Theridion sterninotatum</i> Boes. et Str. | ムナボシヒメグモ    |
| 6. <i>Nesticus brevipes</i> Yaginuma            | コホラヒメグモ     |
| 7. <i>Acusilas coccineus</i> Simon              | ハツリグモ       |

- |  |           |
|--|-----------|
| 8. <i>Araneus pentagrammicus</i> (Karsch)        | アオオニグモ    |
| 9. <i>Leucauge subblanda</i> Boes. et Str.       | コシロカネグモ   |
| 10. <i>Cybaeus nipponicus</i> (Uyemura)          | カチドキナミハグモ |
| 11. <i>Litisedes shirahamensis</i> Oi            | イソタナグモ    |
| 12. <i>Xysticus croceus</i> Fox                  | ヤミイロカニグモ  |
| 13. <i>Hasarius adansoni</i> (Audouin)           | アダソンソハエトリ |
| 14. <i>Menemerus himeshimensis</i> Doen. et Str. | イソハエトリ    |
| 15. <i>Silerella vittata</i> (Karsch)            | アオオビハエトリ  |
| 16. <i>Phrurolithus nipponicus</i> Kishida       | ウラシマグモ    |
| 17. <i>Orthobula crucifera</i> Boes. et Str.     | オトヒメグモ    |

既知産地：和歌山県白浜・伊豆八丈島・千葉県館山、洲崎

当地からは上野俊一氏により *Desis japonica* ヤマトウシオグモが採集されている。

N 東京都伊豆新島

Data April, 5th, 6th, 1971

Col. Yukio Sawada

新島のクモについては、仲辻(1942)、八木沼(1957)、大野・八木沼(1968)の諸氏によって今までに54種の分布が確認されている。今回米印5種が新島の fauna に加わり、59種となる。

- |  |             |
|--|-------------|
| 1. <i>Uloborus sybotides</i> Boes. et Str.     | カタハリウズグモ    |
| *2. <i>Ariadna lateralis</i> (Karsch)          | ミヤグモ        |
| 3. <i>Oonopistha bonadea</i> Karsch            | シロカネイソウロウグモ |
| *4. <i>Zilla sachalinensis</i> (Saito)         | カラフトオニグモ    |
| *5. <i>Coelotes insidiosus</i> L. Koch         | シモフリヤチグモ    |
| *6. <i>Hahnia corticicola</i> Boes. et Str.    | ハタケグモ       |
| 7. <i>Pisaura lama</i> Boes. et Str.           | アズマキシダグモ    |
| 8. <i>pisticus truncatus</i> (Pallas)          | ガザミグモ       |
| 9. <i>Tmarus piger</i> (Welck.)                | トラフカニグモ     |
| 10. <i>Myrmarachne japonica</i> (Karsch)       | アリグモ        |
| 11. <i>Rhene atrata</i> (Karsch)               | カラシハエトリ     |
| 12. <i>Silerella vittata</i> (Karsch)          | アオオビハエトリ    |
| *13. <i>Itatsina praticola</i> (Boes. et Str.) | イタチグモ       |
| 14. <i>Olubiona</i> sp. ♀                      | フクログモ一種     |
| 15. <i>Gnaphosidae</i> Gen. sp. ♀              | ワシグモ科一種     |

## V 静岡県伊豆土肥

Date April, 8th, 9th, 1970

Col. S.Gonda

|   |             |
|---|-------------|
| 1. <i>Lathys punctosparsa</i> Oi                    | ナシジカレハグモ    |
| 2. <i>Oecobius annulipes</i> Lucas                  | チリグモ        |
| 3. <i>Ischnothyreus narutomii</i> (Nakatsudi)       | ナルトミダニグモ    |
| 4. <i>Pholcus crypticolens</i> Boes. et Str.        | ユウレイグモ      |
| 5. <i>Ariannes cylindrogaster</i> Simon             | オナガグモ       |
| 6. <i>Rhomphaea sagana</i> (Doen. et Str.)          | ヤリグモ        |
| 7. <i>Steatoda albilunata</i> (Saito)               | ハンゲツ オスナキグモ |
| 8. <i>Theridion tepidariorum</i> (C. Koch)          | オオヒメグモ      |
| 9. <i>Linyphia oidedicata</i> (Hels.)               | ヘリジロサラグモ    |
| 10. <i>Prolinyphia yunohamensis</i> (Boes. et Str.) | ユノハマサラグモ    |
| 11. <i>Araneus pentagrammicus</i> (Karsch)          | アオオニグモ      |
| 12. <i>Cyclosa octotuberculata</i> Karsch           | ゴミグモ        |
| 13. <i>O. sedeculata</i> Karsch                     | ヨツデコミグモ     |
| 14. <i>Larinia argiopiiformis</i> Boes. et Str.     | コガネグモダマシ    |
| 15. <i>Uroctea compactilis</i> L. Koch              | ヒラタグモ       |
| 16. <i>Cybaeus</i> sp. ♀                            | ナミハグモ一種     |
| 17. <i>Coelotes antri</i> (Komatsu)                 | ホラズミヤチグモ    |
| 18. <i>O. insidiosus</i> L. Koch                    | シモフリヤチグモ    |
| 19. <i>Cicurina iaponica</i> (Simon)                | コタナグモ       |
| 20. <i>Hahnia corticicola</i> Boes. et Str.         | ハタケグモ       |
| 21. <i>Dolomedes sulfureus</i> L. Koch              | イオウイロハシリグモ  |
| 22. <i>Pisaura lama</i> Boes. et Str.               | アズマキシダグモ    |
| 23. <i>Lycosa coelestis</i> L. Koch                 | ハラクロドクグモ    |
| 24. <i>Pardosa T-insignita</i> (Boes. et Str.)      | ウズキドクグモ     |
| 25. <i>Oxyopes sertatus</i> L. Koch                 | ササグモ        |
| 26. <i>Misumenops tricuspидatus</i> (Fab.)          | ハナグモ        |
| 27. <i>Oxytate striatipes</i> L. Koch               | ワカバグモ       |
| 28. <i>Tibellus tenellus</i> (L. Koch)              | シャコグモ       |
| 29. <i>Tmarus piger</i> (Walck.)                    | トラフカニグモ     |
| 30. <i>Jotus difficilis</i> Boes. et Str.           | マガネアサヒハエトリ  |
| 31. <i>Carrhotus detritus</i> Boes. et Str.         | ネコハエトリ      |
| 32. <i>Myrmarachne innermichelis</i> Boes. et Str.  | ヤサアリグモ      |
| 33. <i>M. japonica</i> (Karsch)                     | アリグモ        |
| 34. <i>Plexippus paykulli</i> (Audouin)             | チャスジハエトリ    |

- |  |           |
|--|-----------|
| 35. <i>Silerella vittata</i> (Karsch)        | アオオビハエトリ  |
| 36. <i>Clubiona vigil</i> Karsch             | ムナアカフクログモ |
| 37. <i>Orthobula crucifera</i> Boes. et Str. | オトヒメグモ    |
| 38. <i>Heteropoda forcipata</i> (Karsch)     | コアシダカグモ   |
| 39. <i>Anahita fauna</i> Karsch              | シボグモ      |
| 追加   |           |
| 40. <i>Argiope amoena</i> L.Koch             | コガネグモ     |

Date Aug., 12th, 1971

参考文献

- 八木沼健夫 (1968) 原色日本蜘蛛類大図鑑、大阪・保育社
- (1967) 日本産真正蜘蛛類の検討、追加ならびに7新種の記載、追手門学院大学紀要、1、pp.87~107
- (1970) 日本の真正蜘蛛類相、国立科学博物館報、13(4)
- 大野正男・八木沼健夫 (1968) 新島・式根島・神津島の真正蜘蛛類、東洋大学紀要、10

クモの記事(6)

国見裕久

擬態 自然も嘘をつく

W. ヴィックラー著 羽田節子訳  
昭和45年10月5日初版発行  
平凡社 293頁 ¥600

擬態の研究では世界的に有名な著者によって、学問的立場に立ち、様々な動物の擬態の紹介がなされている。クモでは *Misumena vatia* の Color change が、腸から皮膚へ液状の色素の移動によることが記されている。その他にも、アリに擬態するアリグモ、ナゲナワグモの捕食法の不思議、ウツ

ボカズラの中で、訪れる昆虫を待ち捕食する *Misumenops nepenthicola*, クモがいるようにみせかけた台座をたくさん作って、クモを狩る捕食者をだます *Cyclosa mulmeinensis*, *Empis* sp. の特異な配偶行動など、たくさんのクモの記事が含まれている。

昆虫の世界

R. ショーパン著 日高敏隆・平井剛夫訳  
昭和46年3月5日初版発行  
平凡社 310頁 ¥600

昆虫生態学者である著者は、本書で生物を支配する環境を現在までの環境の測定法の問題点を指摘しながら、微気象という概念を提示し、その必要性を強調している。二章に就ては、サンプリングの方法について論じ、後半は、グループ効果等について論じられている。生態学の入門書としても最適であり、

野外で仕事をしているものには、必読の書といえるだろう。クモについては、Phenological な仕事の紹介や、クモの生態的地位について、環境変化がクモ類に及ぼす影響等、生態学的な立場に立ちクモを見ている。

自然と生命のパレード 生態学入門  
ジョン・H・ストアラ著 浦本昌記訳  
1961年6月10日 第1版第1刷発行  
白揚社 246頁 ¥420

原著のタイトル“Web of Life”を見れば内容はだいたいわかると思う。

「生命の網」というダーウィンが提唱したこの言葉の意味する通り、自然界は多様な生物が互いに網の目のように入り組んでおり、多くの事例により示されている。特にクモだけについて、論じている個所

はないが、自然界でのクモの重要性というものが本書を読むことにより理解できると思う。

天敵 生物制御へのアプローチ  
安松 京三 著  
昭和45年7月20日第1刷発行  
日本放送出版協会 204頁 ¥320

農業禍が問題になっている現在、農業に変わる新しい害虫防除法が早急に確立されなくてはならない。本書では、天敵の探究と活用生物農薬の開発など、外国の事例を示しながら天敵の必要性を論じている。残念ながら、クモ類の天敵としての役割については全くふれられていないが、応用蜘蛛学に興味を持つ

ている人に一読をお勧めする。本書で注意してほしいのは、天敵の定義が拡大解釈されているため、教カ所疑問に残る点がある。

動物の生態 その生理と生活  
G. グレイ他著 蒲原春一・江上信雄訳  
1957年5月15日 初版発行  
白揚社 326頁 ¥320

動物の様々な珍しい行動について論じられている。クモについては、ピートルンケーヴィッチが、タランチュラとジカバチの生活を示しながら、ジカバチがタランチュラを狩る様子が詳細に記載している。又、ピーターN. ヴィットが、クモに麻酔薬を与え、その網形の変化について論じている。発展さ

せ、生物検定としてクモを用いることまで考えているようだ。

## 迷 蛛

小 野 展 嗣

蝶類では、熱帯性の種類などで日本で時々採集された記録があっても実際にはその場所で卵や幼虫が生育できないようなものを、偶然飛来したと考えると迷蝶（偶産蝶）と呼んで区別しているようである。しかし蜘蛛類においては、僅かなしかも夏期だけの採集記録で分布を論じている場合がままあるのではないだろうか。確かに蜘蛛には羽もないし食性も蝶とは全く違いが、温度によって分布が制限されるということは共通しているし、また蜘蛛は最も効果的な分布拡大法であるBallooningによって思わぬ遠隔地へ飛んで行くこともできるのである。だから日本の南部で時折採集される熱帯性の蜘蛛（何も熱帯性の蜘蛛ばかりとは限らず寒地性のもでも同様だが）の中にもたまたまBallooningで飛来し夏の間そこで育ってもその場所で越冬できないような蜘蛛—迷蛛—があるのでないだろうか。蜘蛛の分布を考える場合にはそういう点にも留意が必要なのは、それにつけても、日本及びその近隣地域のfaunaの周年調査や生活史の研究がもっと多く行なわれなければならないと思うのである。

# 滝山城趾公園のクモ

東京蜘蛛談話会

1971年5月23日、東京蜘蛛談話会の第1回観察会が都下八王子市滝山城趾において行なわれましたので、その時に観察・採集したクモのリストを報告致します。

当日の参加者：植村利夫・萱嶋 泉・高野伸二・小沢実樹・高田 勝・岡田利博・松本誠治  
(敬称略) 大河内哲二・新海栄一・新井弥生・石山鉄幸・山川守・高橋 登・熊田憲一  
(なお植村・高野・高田氏は奥様と、小沢氏は子どもさんと一緒に参加されました。)

## 目 録

### ANTRODIAETIDAE

1. *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch) カネコトタテグモ

### ATYPIDAE

2. *Atypus karschi* Doenitz シグモ

### ULOBORIDAE

3. *Miagrammopes orientalis* Boes. et Str. マネキグモ  
4. *Uloborus sybotides* Boes. et Str. カタハリウズグモ  
5. *U. varians* Boes. et Str. ウズグモ

### PHOLCIDAE

6. *Pholcus crypticolens* Boes. et Str. ニウレイグモ

### THERIDIIDAE

7. *Anelosimus crassipes* (Boes. et Str.) アジプトヒメグモ  
8. *Ariamnes cylindrogaster* Simon オナガグモ  
9. *Comaroma maculosum* Oi ヨロイヒメグモ  
10. *Dipoena castrata* Boes. et Str. ボカシミジグモ  
11. *D. mustelina* (Simon) カニミジグモ  
12. *Rhomphaea sagana* (Doen. et Str.) ヤリグモ  
13. *Theridion chikunii* Yaginuma バラギヒメグモ  
14. *T. japonicum* Boes. et Str. ヒメグモ  
15. *T. latifolium* Yaginuma ヒロハヒメグモ  
16. *T. sterninotatum* Boes. et Str. ムナボシヒメグモ  
17. *T. subadultum* Boes. et Str. コケヒメグモ  
18. *T. tepidariorum* (C. Koch) オオヒメグモ

### LINYPHIIDAE

19. *Neolinyphia fusca* Oi クスマサラグモ

20. *N. japonica* Oi

ツリサラグモ

上記2種はハンモック網を張り、ツリサラグモは網の上に平行腹位に、クスマサラグモは網の下に平行背位に占座している。平地に見られるツリサラグモ属の代表的な種類である。

21. *Prolinyphia longipedella* (Boes. et Str.) アシナガサラグモ

## MICRIPHANTIDAE

22. *Cornicularia vulgaris* Oi

コテングヌカグモ

23. *Solenysa mellottei* Simon

アリマネグモ

19番のヨロイヒメグモと共に、ベルレーゼ・ファンネルによって松本が確認した。いずれも極めて微少なクモであるためルーベなどでの同定は困難である。

## MIMETIDAE

24. *Ero japonica* Boes. et Str.

センシウグモ

## SYMPHITOGNATHIDAE

25. *Mysmena jobi* Kraus

ナンブコツブグモ

体長1~1.5mmの微少なクモで、崖地や倒木と地表の間・落葉のすき間などに2~4cm程の完全な籠状(アヤトリ状)の不規則網を張り、その中心(あるいはやや上部)に占座している。東京では一般的なクモである。

## ARGIOPIDAE

26. *Araneus fuscocoloratus* Boes. et Str.

ヤミイロオニグモ

27. *A. ventricosus* (L. Koch)

オニグモ

28. *A. pentagrammicus* (Karsch)

アオオニグモ

29. *A. cucurbitinus* Clerck

ハナオニグモ

30. *A. ejusmodi* Boes. et Str.

ヌサオニグモ

31. *Neoscona scylla* (Karsch)

ヤマシロオニグモ

32. *Argiope aetherea* (Walckenaer) ?

チュウガタコガネグモ

33. *A. amoena* L. Koch

コガネグモ

34. *Cyclosa laticauda* Boes. et Str.

キシロゴミグモ(ムツデゴミグモ)

35. *C. octotuberculata* Karsch

ゴミグモ

36. *C. sedeculata* Karsch

ヨツデゴミグモ

## TETRAGNATHIDAE

37. *Leucauge magnifica* Yaginuma

オオシロカネグモ

38. *L. subgemma* Boes. et Str.

キララシロカネグモ

39. *Tetragnatha squamata* Karsch

ウロコアシナガグモ

## UROCTEIDAE

40. *Uroctea compactilis* L. Koch

ヒラタグモ

## AGELLENIDAE

41. *Agelena limbata* Thorell

クサグモ

- |                                       |         |
|---------------------------------------|---------|
| 42. <i>A. opulenta</i> L. Koch        | コクサグモ   |
| 43. <i>Coelotes exitiabis</i> L. Koch | ヤチグモ    |
| 44. <i>C. luctuosus</i> L. Koch       | メガネヤチグモ |
| 45. <i>C. modestus</i> Simon          | ヤマヤチグモ  |

#### LYCOSIDAE

- |  |                   |
|--|-------------------|
| 46. <i>Pardosa T-insignita</i> (Boes. et Str.) | ウズキドクグモ(ウズキコモリグモ) |
|--|-------------------|

#### THOMISIDAE

- |   |          |
|---|----------|
| 47. <i>Misumenops japonicus</i> (Boes. et Str.) | コハナグモ    |
| 48. <i>M. tricuspidatus</i> (Fabricius)         | ハナグモ     |
| 49. <i>Oxytate striatipes</i> L. Koch           | ワカバグモ    |
| 50. <i>Philodromus spinitarsis</i> Simon        | キハダエビグモ  |
| 51. <i>P. subaureolus</i> Boes. et Str.         | アサヒエビグモ  |
| 52. <i>Tibellus tenellus</i> (L. Koch)          | シャコグモ    |
| 53. <i>Tmarus piger</i> (Walckenaer)            | トラフカニグモ  |
| 54. <i>Xysticus croceus</i> Fox                 | ヤミイロカニグモ |

#### SALTICIDAE

- |   |           |
|---|-----------|
| 55. <i>Carrhotus detritus</i> Boes. et Str. | ネコハエトリ    |
| 56. <i>Evarcha albaria</i> (L. Koch)        | マミジロハエトリ  |
| 57. <i>Hasarius doenitzi</i> Karsch         | デーニッツハエトリ |
| 58. <i>Menemerus pullus</i> (Karsch)        | ヨダンハエトリ   |
| 59. <i>Myrmarachne japonica</i> (Karsch)    | アリグモ      |

#### CLUBIONIDAE

- |   |           |
|---|-----------|
| 60. <i>Clubiona japonicola</i> Boes. et Str.  | ハマキフクログモ  |
| 61. <i>C. vigil</i> Karsch                    | ムナアカフクログモ |
| 62. <i>Itatsina praticola</i> (Boes. et Str.) | イタチグモ     |
| 63. <i>Phururolithus nipponicus</i> Kishida   | ウラシマグモ    |

#### CTENIDAE

- |                                 |      |
|---------------------------------|------|
| 64. <i>Anahita fauna</i> Karsch | シボグモ |
|---------------------------------|------|

#### まとめ

今回の観察会では18科64種のクモを確認することができた。注目すべき種としてはコテングヌカグモ1種だけで、他の63種はいずれも春の東京を(日本をも?)代表するような一般的な種類であり、東京付近において同時期に採集を行えば、いずれの地域でもこれと同じクモが大部分を占めるのではないかと考えている。

また滝山のクモに関しては1965年に新海が42種を報告しており、今回の記録を合わせると、約80種が確認されたことになる。今後さらに調査が進み年間を通しての記録がまとまった時には、おそらく150~170種(これは八王子市檜原・町田市玉川学園内の記録と比較して)は確認されていることと思われる。

# 清澄山の真正蜘蛛類

東京蜘蛛談話会

東京蜘蛛談話会第2回観察会を8月4日～8月6日(2泊3日)まで、千葉県天津小湊町東大付属千葉演習林で行なった。

東大演習林内は動植物採集禁止区域であるが、現在この地域では文部省特定研究「陸上生態系の人為による攪乱」の調査が行なわれており、国見裕久がその中のクモ類を担当している関係から、今回の観察会は、国見の研究の一部である、「各林分毎の spider fauna の調査」への協力を兼ねて、あらゆる採集方法を使って相当綿密に行なっている。

千葉県のクモに関しては、斉藤(1964に2報)松本(1967・1968)石井(1969)小岩(1970)石山(1970)等の報告があり、220種が記録されており、また国見の採集品の中からも次々と千葉県への追加種が出ているため、数ヶ月後には300種近くに達することは十分考えられ、ここにおいて今回の120種弱の資料より種々の考察を行なうことはあまり意味がないようにも思われる。しかしながら現在各地で行なわれているJIBPの真正蜘蛛類の調査報告(CT-Sの御岳・石鎚山・大雪山等)を見ると、夏期においてほぼ同じ位の種類数を出しており、限定された地域内に夏の間生息しているクモの種類数は120前後と考えられる。このことから今回の資料も各地の夏型の spider fauna を比較する上で何らかの参考になるのではないかと考えている。

## 調査概要

1. 調査場所：東大演習林内の札郷ならびに清澄(標高は200～300m、年平均気温は札郷14.1°C(1960～1968年平均)、清澄13.6°C(1965～1969年平均))
2. 調査日：1971年8月4日～6日
3. 調査方法：ハンドソーティングを主体として、落葉・石の下・朽木・倒木などを含むあらゆる場所において調査を行なった。その他スリーピング、ピーティング、シフティング、ベルレーゼファンネル、トラップ法により採集。
4. 採集者：石井 潔・小野展嗣・国見裕久・栗原輝代子・榎田重雄・新海栄一・高島孝典・高橋 登・高林桂子・松本誠治・山川 守

## 採集記録

1. 採集個体数：成体から幼生まで合計約450個体
2. 確認種類：23科109種(未決定種約15種)
3. 調査環境(針葉樹林・広葉樹林・草本層・地表・リター中など)別の採集記録については、後日国見により詳細の予定であるため、今回の報文ではふれていない。

注……リストは種名の確定している109種をもって作成したが、fauna についての考察では未決定種15種を含んでいる。

目 録：(※印は千葉県新記録)

|     |  |               |
|-----|--|---------------|
|     | <b>CTENIZIDAE</b>                            | ト タ テ グ モ 科   |
| 1.  | <i>Ummidia fragaria</i> (Doenitz)            | キノボリトタテグモ     |
|     | <b>ATYPIDAE</b>                              | ジ グ モ 科       |
| 2.  | <i>ATypus karschi</i> Doenitz                | ジグモ           |
|     | <b>ULOBORIDAE</b>                            | ウ ズ グ モ 科     |
| 3.  | <i>Miagrammopes orientalis</i> Boes.et Str.  | マネキグモ         |
| 4.  | <i>Uloborus sybotides</i> Boes.et Str.       | カタハリウズグモ      |
| 5.  | <i>U. varians</i> Boes.et Str.               | ウズグモ          |
|     | <b>SEGESTRIIDAE</b>                          | エ ン マ グ モ 科   |
| 6.  | <i>Ariadna lateralis</i> (Karsch)            | ミヤグモ          |
|     | <b>PHOLCIDAE</b>                             | ユ ウ レ イ グ モ 科 |
| 7.  | <i>Pholcus crypticolens</i> Boes.et Str.     | ユウレイグモ        |
| 8.  | <i>Simonius typicus</i> Kishida              | シモングモ         |
|     | <b>THERIDIIDAE</b>                           | ヒ メ グ モ 科     |
| 9.  | <i>Anelosimus crassipes</i> (Boes.et Str.)   | アシプトヒメグモ      |
| 10. | <i>Ariamnes cylindrogaster</i> Simon         | オナガグモ         |
| 11. | ※ <i>Chryso punctifera</i> (Yaginuma)        | ホシミドリヒメグモ     |
| 12. | <i>Conopistha bonadea</i> Karsch             | シロカネイソウロウグモ   |
| 13. | <i>C. fissifrons</i> (O.P. Cambridge)        | チリイソウロウグモ     |
| 14. | <i>C. fur</i> (Boes.et Str.)                 | フタオイソウロウグモ    |
| 15. | <i>Dipoena flavomarginata</i> Boes.et Str.   | ケベリミジグモ       |
| 16. | ※ <i>D. punctisparsa</i> Yaginuma            | シモフリミジグモ      |
| 17. | <i>Rhomphaea sagana</i> (Doen.et Str.)       | ヤリグモ          |
| 18. | ※ <i>Theridion angulithorax</i> Boes.et Str. | ツリガネヒメグモ      |
| 19. | <i>T. chikunii</i> Yaginuma                  | バラギヒメグモ       |
| 20. | <i>T. japonicum</i> Boes.et Str.             | ヒメグモ          |
| 21. | ※ <i>T. kompirense</i> Boes.et Str.          | コンビラヒメグモ      |

上記2種は形態・色彩とも極めて近似しているため一見すると同種に見えるが、習性が異っており、コンビラヒメグモは不規則網だけを張り、ヒメグモのように不規則網の下にシート網を作ることがなく、網の中心部に枯葉などを吊ることもないという(中平-1961-)。しかし標本になっている場合は顕微鏡による精査が必要である。

22. *Theridion rapulum* Yaginuma                      ギボシヒメグモ

広葉樹の葉裏に不規則網を張る。夜間は垂糸に粘球を持った大きな網を張るが、明け方とりこわすため、昼間は糸を引きまわしただけの小さな網である。色彩・斑紋に異変が多く、全体真黒なものや、腹部中央に褐色の縦条のあるものなどがある。



55. *Meta reticuloides* Yaginuma ヤマジドヨウグモ
56. *Nephila clavata* L. Koch ジョロウグモ
- TETRAGNATHIDAE** アシナガクモ科
57. *Leucauge magnifica* Yaginuma オオシロカネグモ
58. *L. subgennea* Boes. et Str. キララシロカネグモ
- シロカネグモ属では、この2種の他に今回確認することができなかった *L. blanda* (チュウガタシロカネグモ) と *L. subblanda* (コシロカネグモ) の中間型のような種が採集されている。
59. *Tetragnatha praedonia* L. Koch アシナガグモ
- UROCTEIDAE** ヒラタグモ科
60. *Uroctea compactilis* L. Koch ヒラタグモ
- ARGYRONETIDAE** ミズグモ科
61. *Cybaeus nipponicus* (Uyemura) カチドキナミハグモ
- AGELENIDAE** タナグモ科
62. *Agelena limbata* Thorell クサグモ
63. *A. opulenta* L. Koch コクサグモ
64. *Coelotes exitialis* L. Koch ヤチグモ
65. *C. modestus* Simon ヤマヤチグモ
- 八木沼博士よりの私信によるとヤマヤチグモは2種のクモに同一の名前(学名・和名とも)がつけられている可能性があるため、同定の際には十分注意を要するとのことである。なお網の形状からはクサグモ型とヤチグモ型の2型あることを1969年に新海が報告しているが、2種のクモは生態面からも区別が可能か否か今後詳しく調査する必要がある。
- PISAURIDAE** キシダグモ科
66. *Dolomedes raptor* Boes. et Str. アオグロハシリグモ
67. *D. saganus* Boes. et Str. スジアカハシリグモ
68. *D. sulfureus* L. Koch イオウイロハシリグモ
69. *Pisaura lama* Boes. et Str. アズマキシダグモ
- LYCOSIDAE** ドクグモ科
70. *Pardosa laura* Karsch ハリゲドクグモ
71. *P. T-insignita* (Boes. et Str.) ウツキドクグモ
72. *Pirata procurvus* (Boes. et Str.) チビドクグモ
73. *P. subpiraticus* (Boes. et Str.) キバラドクグモ
- OXYOPIDAE** ササグモ科
74. *Oxyopes sertatus* L. Koch ササグモ
- THOMISIDAE** カニグモ科
75. *Heriades mellottei* Simon アシナガカニグモ
76. *Misumenops japonicus* (Boes. et Str.) コハナグモ

77. *Misumenops tricuspidatus* (Fabricius) ハナグモ  
 78. *Oxytate striatipes* L. Koch ワカバグモ  
 79. ※*Philodromus flavidus* Saito キエビグモ  
 80. *P. subaureolus* Boes. et Str. アサヒエビグモ  
 81. *Pistius truncatus* (Pallas) ガザミグモ  
 82. *Thomisus labefactus* Karsch アズチグモ  
 83. *Tibellus tenellus* (L. Koch) シャコグモ  
 84. *Thanatus formicinus* (Clerck) ヤドカリグモ  
 85. *Tmarus piger* (Walckenaer) トラフカニグモ  
 86. *Xysticus croceus* Fox ヤミイロカニグモ

SALTICIDAE

ハエトリグモ科

87. ※*Boethus sexdentatus* Yaginuma ムツバハエトリ  
 88. *Carrhotus detritus* Boes. et Str. ネコハエトリ  
 89. *Evarcha albaria* (L. Koch) マミジロハエトリ  
 90. *Hasarius doenitzi* Karsch デーニッツハエトリ  
 91. *Harmochilus brachiatus* (Thorell) ウデブトハエトリ  
 92. *Jotus difficilis* Boes. et Str. マガネアサヒハエトリ  
 93. *Marpissa elongata* (Karsch) ヤハズハエトリ

本種は千葉県北部にはナカムラオニグモと共に非常に多く生息しているが、南部に行くに従って減少してくる。

94. *Marpissa magister* (Karsch) オスクロハエトリ  
 95. *Menemerus confusus* Boes. et Str. シラヒゲハエトリ  
 96. ※*Plexippus annulipedis* Saito マダラスジハエトリ  
 97. *Rhene atrata* (Karsch) カラスハエトリ  
 98. *Silerella vittata* (Karsch) アオオビハエトリ

CLUBIONIDAE

フクログモ科

99. *Chiracanthium eutittha* Boes. et Str. アシナガコマチグモ  
 100. *C. japonicum* Boes. et Str. カバキコマチグモ  
 101. *C. lascivum* Karsch ヤマトコマチグモ  
 102. *Clubiona jucunda* (Karsch) ヤハズフクログモ  
 103. *C. vigil* Karsch ムナアカフクログモ  
 104. *Itatsina praticola* (Boes. et Str.) イタチグモ  
 105. *Orthobula crucifera* Boes. et Str. オトヒメグモ

ANYPHAENIDAE

イズツグモ科

106. *Anyphaena ayshides* Yaginuma ナガイズツグモ  
 107. *A. pugil* Karsch イズツグモ

**HETEROPODIDAE**  
*Heteropoda forcipata* (Karsch)  
**CTENIDAE**  
*Anahita fauna* Karsch

アシダカグモ科  
 コアシダカグモ  
 シボグモ科  
 シボグモ

表-1 清澄山産真正蜘蛛類の科・属・種数一覧表

| Family            | Genera | Species | Family        | Genera    | Species    |
|-------------------|--------|---------|---------------|-----------|------------|
| Ctenizidae        | 1      | 1       | Argyronetidae | 1         | 1          |
| Atypidae          | 1      | 1       | Agelenidae    | 2         | 4          |
| Uloboridae        | 2      | 3       | Pisauridae    | 2         | 4          |
| Segestriidae      | 1      | 1       | Lycosidae     | 2         | 4          |
| Pholcidae         | 2      | 2       | Oxyopidae     | 1         | 1          |
| Theridiidae       | 7      | 17      | Thomisidae    | 10        | 12         |
| Linyphiidae       | 4      | 4       | Salticidae    | 11        | 12         |
| Mimetidae         | 1      | 1       | Clubionidae   | 4         | 7          |
| Symphytognathidae | 1      | 1       | Anyphaenidae  | 1         | 2          |
| Argiopidae        | 8      | 25      | Heteropodidae | 1         | 1          |
| Tetragnathidae    | 2      | 3       | Ctenidae      | 1         | 1          |
| Urocteidae        | 1      | 1       | <b>Total</b>  | <b>67</b> | <b>109</b> |

リスト中の109種を科別にさらべると表-1に示したようになる。なお種名未決定のクモの中にはNesticidae (ホラヒメグモ科)・Microphantidae (コサラグモ科)・Gnaphosidae (ワシグモ科)に属する種が含まれているがリストには加えていない。また各地で普通に採集されていながら今回当地で全く見ることのできなかつたものにDictynidae (ハグモ科)・Theridiosomatidae (カラカラグモ科)・Hahniidae (ハタケグモ科)などを上げることができる。

フ ァ ウ ナ の 特 徴

清澄山は本州におけるクモ類の分布区分線である植村線(=本州南岸線)よりやや南に位置しているが、標高が約300m(今回の調査地では)あるため、平均気温は前述のように1~1.5°C低くなっている。しかしながら採集された種類の区系地理学的構成を見ると下に示した通りになっており、南北両系統に大きな差を見ることはできない。

○北方系種(ヨーロッパ・シベリア亜区系ならびに全北区系の種).....8種

*Floronia bucculenta*, *Mysmena jobi*, *Araneus cucurbitinus*,  
*Argiope bruennichii*, *Misumenops tricuspidatus*,  
*Pistius truncatus*, *Thanatus formicinus*, *Tmarus piger*.

○南方系種(東洋区系の種).....9種

*Conopistha bonadea*, *C. fissifrons*, *Acusilas coccineus*.

*Araneus lugubris*, *Argiope amoena*, *Cyrtarachne inaequalis*,  
*Nephila clavata*, *Agelena limbata*, *Harmochilus brachiatus*,  
 次に各科を構成している種数の全種に対する百分率を求めてみると、(主要6科のみ)

|   |        |
|---|--------|
| <i>Linyphiidae</i> (+ <i>Micryphantidae</i> ) | 4.8 %  |
| <i>Lycosidae</i>                              | 4.8 %  |
| <i>Argiopidae</i> (+ <i>Tetragnathidae</i> )  | 20.0 % |
| <i>Thomisidae</i>                             | 9.7 %  |
| <i>Theridiidae</i> (+ <i>Nesticidae</i> )     | 15.2 % |
| <i>Salticidae</i>                             | 11.3 % |

上記のような結果となる。一般に科の組成率から *fauna* の構成を見る場合、サラグモ科・ドクグモ科は北方系の、ハエトリグモ科は南方系の要素を有するとされており、この点を前提として上のハエトリグモ科・ドクグモ科・サラグモ科の%を比べてみると、ハエトリグモ科がサラグモ科・ドクグモ科の2倍以上の数となり、これを JIBP の調査地と比較した場合は屋久島と同程度の *fauna* の構成となってくる。しかしこれは南北両系統のクモがほぼ同じ比率となっている区系地理学上に表われた *fauna* の特徴と大幅に違いになるので、この違いについては今後清澄山と同様、植村線上の位置にあるいずれかの低山において調査を行ない、十分な資料が集った時点で改めて考察を試みたいと思っているが、現段階では一応次のようなことが考えられる。

清澄山は南北両系統のクモの分布区分線といわれている植村線上に位置しているために両系統の割合がほぼ一致していることは当然考えられる。これは言いかえると区系地理学上に表われた数字は相当信頼のおけるものであることを示しており、逆に科の組成率から見た *fauna* はハエトリグモ科とサラグモ科の差がひらきすぎていることから、今回の調査が不十分であったかあるいはこの考察方法が特定の地域以外では使用できないものかの2つが考えられるが、調査が不十分であった場合には今後サラグモ科に属するクモの数が増加して、ハエトリグモ科との差が少なくなる可能性がある。

また次に考えられることは、植村線は南北両系統に含まれる種の混生地ではなく谷間になっているため、この線に近づくにつれて南方系あるいは北方系の要素を強く有するクモは著しく減少し、今回の区系地理学的考察に使用した17種のような本州全域に亘って分布しているクモだけが残ってしまうのである。つまりこの線上では区系地理学的構成によって両系統の明瞭な差を見きわめることはできないわけである。

そこで今回採集されたクモを従来のような区系(旧・全北区・東洋区)を考えに入れずに、本州において南部に多く分布するクモ(南部型)と北部に多く分布するクモ(北部型)とを比較してみた場合、南部型と思われるクモにはキノポリトタテグモ・アシプトヒメグモ・シロカネイソウロウグモ・チリイソウロウグモ・トリノフンダマシ・シロオビトリノフンダマシ・クロトリノフンダマシ・アカイロトリノフンダマシの8種、北部型と思われるクモにはハナサラグモ・キエビグモ・ガザミグモの3種があり、この割合は、南方系の要素が極めて強く表われている科の組成率より見た *fauna* の構成とほぼ一致することになる。つまり植村線上の地域では区系生物地理学的考察よりも科の組成率

から見た fauna の構成を重視した方が良いわけである。さらにこの点から今後は前記の南部型・北部型のクモの比率を考えて fauna の考察を進める事も必要であると思われる。

以上、区系地理と科の組成率による fauna の構成のそれぞれ重視する点を記したが、東京都下高尾山の年間調査の資料から夏期と冬期における科の組成率の比率を見た場合、夏期はハエトリグモ科がサラグモ科を上回っており南方系の特徴を表わすが、冬期はサラグモ科が圧倒的に多く採集されて完全な北方系の fauna となって来る。そして年間ではサラグモ科がハエトリグモ科をしのいで北方系の fauna を示しているところから、清澄山の調査においても今回はハエトリグモ科がサラグモ科を上回っていても、上記のように季節によって両科の比率が異ってくることは当然考えられる。また旧北区系・東洋区系に属するクモもわずかではあるが夏と冬に同様の変化が見られるところから、今回のこの調査も清澄山の夏型の真正クモ類相として報告しておくことが最も妥当であろうと考えている。

#### 参 考 文 献

- Kraus, O., 1967. Zur Spinnenfauna Deutschlands, II. *Mysmena jobi* n. sp., eine Symphytognathide in Mitteleuropa (Arach.).  
*Senck. biol.*, 48 (5/6): 387-399. Frankfurt am Main.
- 中 平 清, 1961. 高知県のクモ. *Atypus*, (23/24): 27-60.
- 八木 昭 健 夫, 1968. 原色日本蜘蛛類大図鑑. 保育社
- 1969. クモの分布から見た本州南岸線. *昆虫と自然*, 4(11): 2-5
- 1970. 日本の真正蜘蛛類相. *国立科学博物館研究報告*, 13(4): 639-701
- . 西川喜朗, 1971. 大雪山の真正蜘蛛類. 文部省科研特定研究「生物圏の動態」  
 陸上生態系における動物群集の調査と自然保護の研究, 昭和45年度研究報告: 71-96
- (文責 . 新 海 栄 一)

なお清澄山に向う途中、勝浦の海岸において次のクモを採集した。

|  |          |
|--|----------|
| <i>Ariadna insulicola</i> Yaginuma             | シマミヤグモ   |
| <i>Araneus subpullatus</i> Boes. et Str.       | ヘリジロオニグモ |
| <i>Yaginomia sia</i> (Strand)                  | ズグロオニグモ  |
| <i>Leucauge magnifica</i> Yaginuma             | オオシロカネグモ |
| <i>Litisedes shirahamensis</i> Oi              | イソタナグモ   |
| <i>Pardosa T-insignita</i> (Boes. et Str.)     | ウツキドクグモ  |
| <i>Menemerus confusus</i> Boes. et Str.        | シラヒゲハエトリ |
| M. <i>himeshimensis</i> Doen. et Str.          | イソハエトリ   |
| <i>Myrmarachne innermichelis</i> Boes. et Str. | ヤサアリグモ   |
| <i>Argiope amoena</i> L. Koch                  | コガネグモ    |

# 奥 秩 父 の ク モ

東京蜘蛛談話会

千葉県清澄山につづいて8月16日～18日まで、談話会の第3回観察会が埼玉県奥秩父の三峰山・川又・中津峡において行なわれたので、その際のクモ類目録を報告しておく。

埼玉県のクモについて、現在までにリスト形式の報文として発表されたものは新海(1966)と遠藤(1967)の2報のみであり、その他は川口市付近の短報や *Atypus* の分布資料などにカトウツケオグモ・ナンブコツブグモなどの種名を見るにすぎない。しかし県内のクモは大野正男・大河内哲二・新井弥生・原勝司、他数名の方々により研究されていることから、いずれ総合的な報告が発表されることと思われるので、今回のリストも何らかのお役に立てば幸いである。

## 調 査 概 要

### 1. 調査場所ならびに日時

1971年8月16日……秩父郡大滝村川又付近。

8月17日……中津川溪谷中双里付近ならびに仏石山鍾乳洞(宝晶寺洞)内。

8月18日……三峰山。〔帰途に名栗村河又洞(名栗鍾乳洞)内を調査〕

2. 調査方法：ハンドソーティング(落葉・石の下・倒木の下など含む)。

3. 採集者：新井弥生・大河内哲二・小沢実樹・権田重雄・新海栄一・高橋登・山川守

## 目 録 (普通種は種名の後に産地を記していない。)

|  |             |       |
|--|-------------|-------|
| <b>CTENIZIDAE</b>  | ト タ テ グ モ 科 |       |
| 1. <i>Ummidia fragaria</i> (Doenitz)   | キノボリトタテグモ   | 三峰    |
| <b>ATYPIDAE</b>  | ジ グ モ 科     |       |
| 2. <i>Atypus karsch</i> Doenitz  | ジグモ         | 川又・三峰 |
| <b>AMAUROBIIDAE</b>  | ガ ケ ジ グ モ 科 |       |
| 3. <i>Anaurobius flavidorsalis</i> Yaginuma  | セスジガケジグモ    | 川又    |
| 石垣、崖地、樹の割れ目などに不規則な棚網?を張る。北部型のクモで栃木県では平地に生息するが、埼玉、山梨県などでは山地に分布している。ヤマトガケジグモ( <i>Titanoeca nipponica</i> )と本種が同一の山に生息している場合は、ふもとにヤマトガケジグモが多く、ある程度の高さから急にセスジガケジグモが多く見られるようになって来る。全国的に見ても採集記録は少なく今回の重要種の一つであるが、今後は各地で発見されることも思われる。極地的分布の傾向がある。 |             |       |
| <b>ULOBORIDAE</b>  | ウ ズ グ モ 科   |       |
| 4. <i>Miagrammopes orientalis</i> Boes.et Str.   | マネキグモ       |       |
| 5. <i>Uloborus sybotides</i> Boes.et Str.  | カタハリウズグモ    |       |
| 6. <i>U. varians</i> Boes.et Str.  | ウズグモ        |       |

腹部背面の斑紋には変化が多く、通常の斑紋の他に白色型、黒色型などもある。崖下や下草の間に水平円網を張り渦巻状のかくれおびをつける。

### SEGESTRIIDAE

エンマグモ科

#### 7. *Segestria komatsuana* Komatsu

コマツエンマグモ

スギ、ヒノキなどの樹皮の割れ目、岩の割れ目に細長い管状住居を作り入口に触糸を引く。

また岩の表面のくぼみに管状住居(キノボリトタテグモの住居の扉をとり、細長くしたようなもの)を作る場合は、入口と出口のあるトンネル状の住居である。本種の学名には疑問があり、エンマグモ(*S. nipponica* Kishida)と同一種である可能性もある。

### LEPTONETIDAE

マシラグモ科

#### 8. *Falcileptoneta* sp.

マシラグモの一種 名栗鍾乳洞内

幼生の為に種名決定不可能であるが、色彩と斑紋よりヨコフマシラグモ(*F. striata* かヨウサワマシラグモ(*F. musculina*))と思われる。

岩の割れ目、石の下などに小さなシート網を張る。

#### 9. *Masirana* sp.

ヒナマシラグモの一種 仙石山鍾乳洞内

雌の亜成体であった為に種名決定を保留した。ヒナマシラグモ属のクモはいずれも(ニッバラヒナマシラグモ、コソデヒナマシラグモ、アカハネヒナマシラグモなど)鍾乳洞内の岩のすき間や石の間などにシート網を張り、網の中心付近に平行背位に占座する。コソデヒナマシラグモでは30cmに達する大きな網を張るものもある。

### PHOLCIDAE

ユウレイグモ科

#### 10. *Pholcus crypticolens* Boes. et Str.

ユウレイグモ

#### 11. *Spermophora akebona* Komatsu

アケボノユウレイグモ 三峰

鍾乳洞内に多いクモであるが、今回は三峰山登山口付近の岩場で採集された。洞内では天井付近に、洞外では崖地や岩のくぼみに不規則網を張る。幼生期はカゴ状の網を張ることから、ヒメグモ科に極めて近い種類であろうと思われる。

関東・中部地方に広く分布しており、東京周辺では養沢、倉沢、日原、不老、小袖、青岩の各鍾乳洞内外で採集されている。

### THERIDIIDAE

ヒメグモ科

#### 12. *Ariamnes cylindrogaster* Simon

オナガグモ

灌木や草間などに条網を張るが、網には粘性はなく、その糸を伝わって来るクモを待ちかまえて捕食する。捕食されているクモには徘徊性の種類が多く、特にカニグモ科、ドクグモ科に属するクモが良く食べられている。他の「クモを襲うクモ」(センショウグモ、ヤリグモ、ヤマトカナエグモ)がいずれも徘徊性であるとするれば、本種は造網性の「クモを襲うクモ」と言えるが、条網を伝わって来るものは何でも(蝶や蛾の幼虫)捕えているようである。

#### 13. *Chryso venusta* (Yaginuma)

コガネヒメグモ

三峰

#### 14. *Conopistha fissifrons* (O. P. Cambridge)

チリイソウロウグモ 川又、三峰

#### 15. *C. fur* (Boes. et Str.)

フタオイソウロウグモ

16. *Dipoena castrata* Boes. et Str. ボカシミジグモ 三峰

17. *Rhomphaea sagana* (Doen. et Str.) ヤリグモ

センショウグモとともに「クモを襲うクモ」として有名な種類である。捕食されている種類にはアシナガサラグモ、バラギヒメグモ、ヒロハヒメグモ、オオヒメグモ、ヒメグモ、ウズグモ、ユウレイグモ（その他中平氏の記録にはコガネグモ幼成、ヨツデゴミグモ、イエユウレイグモ幼虫など）を確認している。クサグモの網に居候している場合には、その網に来るイソウロウグモか網の主をねらっているようである。

18. *Theridion angulithorax* Boes. et Str. ツリガネヒメグモ

崖や石垣のくぼみに土や食べかすで鐘状の住居を作り2本の糸で吊す。鐘の下に不規則網を張りクモは住居の中にひそんでいる。2~3mmの桃黄色の卵のうは住居の中に置き（通常2個）、親は卵のうのそばにいて保護している。

19. *Theridion chikunii* Yaginuma バラギヒメグモ

針葉樹、広葉樹の区別なく葉の重なりあっている部分の下にシート網を張り、その上に簡単な糸を不規則に引く。餌は主にシート部で採るため、不規則網は捕虫にはあまり役に立っていない。

20. *Theridion japonicum* Boes. et str. ヒメグモ

草間にシート網を張り、その上に不規則網を張りその上部に木の葉を吊るし中にひそむ。捕虫の際はバラギヒメグモより不規則網が利用されている。シート部の上に落ちた餌は網の下側から攻撃して捕える。8-10月にかけて黄褐色の卵のうを木の葉の中に作る。

21. *Theridion rapulum* Yaginuma ギボシヒメグモ

22. T. *takayense* Saito タカユヒメグモ 川又

比較的高山に多く見られるクモで、広葉樹の葉裏に不規則網を張る。卵のうは白色円型でバラギヒメグモ、ヒロハヒメグモなどの卵のうよりは小型である。

23. *Theridion tepidariorum* C. Koch オオヒメグモ

24. T. *yunohamense* Boes. et Str. ユノハマヒメグモ 川又、三峰

湿った崖地や石垣、鍾乳洞の入口付近などに多く、不規則網を張り、網の上部の岩かげにひそむ。腹部中央に赤色斑を有するものと、黄色斑だけのものと2種類が見られる。

関東地方においては個体数は多くなく、局地的分布の傾向がある。

#### NESTICIDAE

#### ホラヒメグモ科

25. *Nesticus brevipes* Yaginuma コホラヒメグモ 名栗鍾乳洞内

チビホラヒメグモ (*N. terrestris* Yaginuma) 1970年八木沼氏により発表された短肢型のホラヒメグモである。鍾乳洞内の岩のすき間やわれ目に小型の不規則網を張る。洞外にも多く、倒木の下、落葉の下から採集される。

26. *Nesticus* sp. ホラヒメグモの一種 三峰

登山口付近の朽木の下より採集したが、幼生の為種名は保留する。(頭胸部と第一脚の比率よりチビホラヒメグモの可能性がある。) 東京周辺でのホラヒメグモの記録は大岳、日原、不老、小袖、倉沢鍾乳洞内(以上長肢型)、高尾山、景信山、玉川大校内などがある。

LINYPHIIDAE

サラグモ科

27. *Labulla contortipes* (Karsch) アシヨレグモ  
樹皮の割れ目、崖のくぼみ、岩の割れ目などにひそんでおり、そこから下方に向かって棚状の目のあらい網を張り出している。
28. *Neolinyphia japonica* Oi ツリサラグモ  
樹木の枝の先端や草間にハンモック状の網を張り、網の上側に平行腹位に占座する。(サラグモ科の中で平行腹位の姿勢をとるクモは本種だけである。)
29. *Neolinyphia fusca* Oi クスマサラグモ  
前種同様木の枝先にハンモック状の網を張るが、占座姿勢は平行背位である。網は2重の皿網であることが多く、上方の網の下面に静止している。
30. *Prolinyphia longipedella* (Boes. et Str.) アシナガサラグモ  
草間や崖地にドーム網を張り、平行背位に静止する。  
(サラグモ科のいくつかは網の形状で属が判断できるものがあり、上記の *Neolinyphia* の仲間はいずれも木の枝にハンモック網を、*Prolinyphia* は草間にドーム網を張り(シロブチサラグモ *L. marginata* は時にドーム網の下にハンモック網を張るために、全体では球状に見えるような網を張ることがある)、*Linyphia* はシート網か浅いドーム網を、そして *Bathyphantes*・*Arcuphantes*・*Doenitzius*・*Meioneta*・*Floronia* など他の多くのサラグモはシート網を張る。

MICRYPHANTIDAE

コサラグモ科

31. *Diplocephalus* sp. ムナキグモの一種 仏石山・名栗鍾乳洞内  
鍾乳洞内の石の下や地面のくぼみにハタケグモ型の網を張る。個体により色彩の濃淡があり、白色型から褐色型まで見られる。  
大岳鍾乳洞内よりも採集されている。各洞ごとに *epigynum* の形に変化が見られる。

32. *Oedothorax* sp. アカムネグモの一種 川又

MIMETIDAE

センショウグモ科

33. *Ero japonica* Boes. et Str. センショウグモ

SYMPHYTOGNATHIDAE

ヨリメグモ科

34. *Conoculus lyugadinus* Komatsu ヨリメグモ 仏石山・名栗鍾乳洞内  
水の流れる鍾乳洞内に多く見られ、個体により水平円網を張るものと、不規則網を張るものの両方が見られるため、コガネグモ科とヒメグモ科の中間型と考えられる。色彩変化があり、黒色型・褐色型・赤色型・斑紋を有するものなどがある。  
関東地方では埼玉・東京・栃木県で採集されている。

35. *Mysmena jobi* Kraus ナンプコツブグモ

談話会の3回の採集会で多数採集されており、その他高尾山・八王子市檜原・杏林大校内・玉川大構内・景信山・陣馬山・御岳山・日原・養沢・倉沢・川乗山・大岳山・高幡不動・百草園などで採集されていることから、全国に普通に見られるクモと考えている。

ARGIOPIDAE

36. *Araneus fuscocoloratus* Boes. et Str. ヤミイロオニグモ

春先に多く見られ5~6月にかけて成体となる。樹の幹に黄色の卵のうを作る。個体(色彩)変異が多く腹部背面上部の斑紋は白色から黒色までいろいろ見られる。

37. A. *ishisawai* Kishida イシサワオニグモ 仏石山鍾乳洞内  
山地に多く草間に正常円網を張り、クモは樹皮間、葉裏などにひそんでいる。黄色と橙色の個体が多いが、極めて稀に緑色型が見られる。

38. A. *macacus* Uyemura ヤエンオニグモ

39. A. *uyemurai* Yaginuma ヤマオニグモ

40. A. *ventricosus* (L. Koch) オニグモ

41. A. *mitificus* (Simon) ビジョオニグモ

キレ網を張り、網の一端にある木の葉の表に天幕を作る。

42. A. *abscissus* (Karsch) キザハシオニグモ

43. A. *pseudocentroides* Boes. et Str. トガリオニグモ

本種には全体黒色で小型の個体と、白色に近い大型の個体の2通りが見られるため今後検討を要する。網の形状は前者は大型の垂直円網を、後者は小型の水平円網を張る。

44. A. *cucurbitinus* Clerck ハナオニグモ

45. *Neoscona mellottei* (Simon) ワキグロサツマノミダマシ

46. N. *scylloides* (Boes. et Str.) サツマノミダマシ

47. N. *nautica* (L. Koch) イエオニグモ

48. N. *scylla* (Karsch) ヤマシロオニグモ

49. *Zilla sachalinensis* (Saito) カラフトオニグモ

色彩の変異が多く、白色型・黒色型・緑色型・赤色型などがある。

50. *Acusilas coccineus* Simon ハツリグモ

地表近くにキレ網を張り、中心部に木の葉を吊し中にひそむ。

51. *Argiope bruennichii* (Scopoli) ナガコガネグモ

52. A. *minuta* Karsch コガタコガネグモ

53. *Cyclosa argenteoalba* Boes. et Str. ギンメッキゴミグモ

木の枝や樹間に垂直円網を張り、直線状・円形など種々のかくれ帯をつける。占座姿勢は一般に垂直上位であるが、時には垂直下位も見られる。ゴミリボンをつける個体もある。

54. C. *atrata* Boes. et Str. カラスゴミグモ

草間の地表に近い所に垂直円網を張り、クモは横向きあるいは斜めに占座し、それに合わせて直線状のかくれ帯をつける。

55. C. *octotuberculata* Karsch ゴミグモ

56. C. *sedeculata* Karsch ヨツデゴミグモ

57. *Cyrtarachne inaequalis* Thorell オオトリノフンダマシ 三峰

58. *Gasteracantha kuhlii* C. Koch トゲグモ 中津溪谷  
樹間に垂直正常円網を張る。網のわく糸には数cmおきに微少な白色の糸くずをつける。局地的に分布しているが、今回は一頭採集されたのみである。

59. *Meta kompirensis* Boes. et Str. タニマノドヨウグモ

60. *M. menardi* (Latreille) サンロウドヨウグモ 川又・仏石山鍾乳洞内  
旧北区系のドヨウグモで鍾乳洞内より多く採集される。洞内の天井付近に大型の水平円網を張り、中心に平行背位に占座していることが多い。8月～10月に産卵し白色のセンシウグモ型の形の卵のうを作る。外側の糸は薄く、中心部にある黄色の卵がすけて見える。卵のうの最大部(最も太い部分)は約2cmあり、クモの卵のうの中では最大級のものである。クモは卵のうのすぐ下にぶらさがって保護している。洞外で採集される場合もあるがいずれも極めて暗い場所が多い。

生活史のリズムには洞内と洞外のものではやや異っており、小袖鍾乳洞内では2月にまどいの状態であるが、長野県では洞外で6月に見られる。

61. *Meta reticuloides* Yaginuma ヤマジドヨウグモ

日の当たらない湿った崖地に多く垂直か斜めに無こしき円網を張り(ドヨウグモの多くは水平網を張る)、中心に占座する。

個体による色彩変異が多く、黒色・褐色・黄色・赤褐色・灰褐色などの各型がある。

62. *Meta yunohamensis* Boes. et Str. メガネドヨウグモ

谷間の溪流上に水平無こしき円網を張るが、八木沼氏によればは垂直円網を張るといふ。

59. のタニマノドヨウグモとともに普通に採集される。

63. *Nephila clavata* L. Koch ジョロウグモ

極めて一般的な種類である本種をわずかに2頭確認しただけであった。

カラカラグモ科

64. *Theridiosoma epeiroides* Boes. et Str. カラカラグモ

草間に平面的な網のくずれた立体的な網を張る。

#### TETRAGNATHIDAE

アシナガグモ科

65. *Leucauge magnifica* Yaginuma オオシロカネグモ

66. *L. subblanda* Boes. et Str. コシロカネグモ

67. *L. subgemma* Boes. et Str. キララシロカネグモ

草間に水平円網を張る。クモは網の一端の葉裏にひそむ。体色変化をするクモとして有名。

68. *Tetragnatha praedonia* L. Koch アシナガグモ

69. *T. squamata* Karsch ウロコアシナガグモ

#### UROCTEIDAE

ヒラタグモ科

70. *Uroctea compactilis* L. Koch ヒラタグモ

#### ARGYRONETIDAE

ミズグモ科

71. *Cybaeus* spp. ナミハグモの一種 仏石山・名栗

いずれの鍾乳洞内のもも白色のナミハグモである。

AGELENIDAE

タ ナ グ モ 科

72. *Agelena limbata* Thirell クサグモ  
 73. *A. opulenta* L. Koch コクサグモ  
 74. *Coelotes luctuosus* L. Koch メガネヤチグモ  
 75. *Coelotes* sp. ヤチグモの一種 中津・川又

亜成体のため種名を保留。

PISAURIDAE

キ シ ダ グ モ 科

76. *Dolomedes hercules* Boes. et Str. スジボケハシリグモ 三峰  
 77. *D. saganus* Boes. et Str. スジアカハシリグモ  
 78. *D. sulfureus* L. Koch イオウイロハシリグモ  
 79. *Pisaura lama* Boes. et Str. アズマキンダグモ

キスジ型、ヤマジ型も採集されている。78. 79. ともにキンダグモ科では最も一般的である。

LYCOSIDAE

ド ク グ モ

80. *Arctosa* sp. ミズドクグモの一種 三峰登山口  
 河原にて採集。青灰色のドクグモで東京付近の河原では多数採集される。

81. *Pardosa T-insignita* (Boes. et Str.) ウツキドクグモ  
 82. *Pirata procurvus* (Boes. et Str.) チビドクグモ

OXYOPIDAE

サ サ グ モ 科

83. *Oxyopes sertatus* L. Koch ササグモ

THOMISIDAE

カ ニ グ モ 科

84. *Misumenops japonicus* (Boes. et Str.) コハナグモ  
 85. *M. tricuspidatus* (fabricius) ハナグモ  
 86. *Oxytate striatipes* L. Koch ワカバグモ  
 87. *Tmarus piger* (Walckenaer) トラフカニグモ  
 88. *Tibellus tenellus* (L. Koch) シャコグモ  
 89. *Xysticus croceus* Fox ヤミイロカニグモ

SALTICIDAE

ハ エ ト リ グ モ 科

90. *Boethus sexdentatus* Yaginuma ムツバハエトリ 川又  
 岩の上を徘徊することが多く、現在まで草上で採集したことはない。夜間は岩のへこみに入りその上に数本の糸を引きまわす。他のハエトリグモのように袋を作ることはないようである。  
 91. *Carrhotus detritus* Boes. et Str. ネコハエトリ  
 92. *Evarcha albaria* (L. Koch) マミジロハエトリ  
 93. *Harmochilus brachiatus* (Thorell) ウデプトハエトリ  
 94. *Myrmarachne japonica* (Karsch) アリグモ  
 95. *Plexippus incognitus* Doen. et Str. ウススジハエトリ

本種の学名には疑問があり、この学名の種はチャスジハエトリと同一種の可能性もある。

|      |  |           |       |
|------|--|-----------|-------|
|      | CLUBIONIDAE                                  | フクログモ科    |       |
| 96.  | <i>Chiracanthium japonicum</i> Boes. et Str. | カバキコマチグモ  |       |
| 97.  | <i>Clubiona jucunda</i> (Karsch)             | ヤハズフクログモ  |       |
| 98.  | <i>C. vigil</i> Karsch                       | ムナアカフクログモ |       |
| 99.  | <i>Itatsina praticola</i> (Boes. et Str.)    | イタチグモ     |       |
|      | HETEROPODIDAE                                | アシダカグモ科   |       |
| 100. | <i>Heteropoda forcipata</i> (Karsch)         | コアシダカグモ   |       |
|      | CTENIDAE                                     | シボグモ科     |       |
| 101. | <i>Anahita fauna</i> Karsch                  | シボグモ      |       |
|      | GNAPHOSIDAE                                  | ワシグモ科     |       |
| 102. | <i>Drassodes</i> sp.                         | ワシグモの一種   | 三峰登山口 |

### ま と め

奥秩父の採集会では以上の28科102種を確認した。注目すべき種としてはセスジガケシグモ・アケボノユウレイグモ・ヨリメグモ・コホラヒメグモ・サンロウドヨウグモなどがあり、特に仏石山鍾乳洞内においてサンロウドヨウグモの卵のうを確認できたことは収穫であった。

fauna についての考察は、採集方法がかたよっていること、考察に要するだけの種数に達していないことなど、fauna の考察に必要な条件<sup>1)</sup>がそろっていないため、また次の機会に試みたいと思っている。

### 参 考 文 献

- 遠藤啓一, 1967. 埼玉県産クモ目録 I, *Atypus*, (43): 23-27.  
 Komatsu, T., 1970. A new genus and a new species of Japanese spiders (*Falcileptoneta* n. g. and *Sarutana kawasawai* n. sp., *Leptonetidae*). *Acta arachnol.*, 23: 1-12.  
 中平 清, 1960. クモを襲うクモ. *Acta arachnol.*, 17: 1-2.  
 新海栄一, 1966 奥秩父の真正蜘蛛類. *Atypus*, (39): 10-12.  
 八木沼健夫, 1958. 日本産コガネグモ科の検討(1) 1 *Meta* 属及 *Meta*-新種.  
*Acta arachnol.*, 15: 24-30.  
 ———— 1964. 広島県産ガケシグモの新種. 比和科学博物館研究報告, (7): 20-23.  
 (文責 . 新海栄一)

1) fauna の考察にはある程度の種類数が必要であることは当然であり、現在までに発表された種々のリストから考えられる種数は、県別リストの場合250種前後、山岳・島嶼・演習林内などの特定地域内では、年間調査の時180~200種、夏期のみ120~140種は必要である、そしてこれだけの種数をあげるためには、ハンドソーティング・ピーティング・シフティング・スーピング・ベルレーゼファンネルなどあらゆる採集方法を使用して調査に当らなくてはならないであろう。

## クモの同定ポイント (2)

本誌№15に同じ題名の(1)として、オオヒメグモの形態・生態の説明と共に外雌器の図を掲載した。この試みは題名の示すように、クモを同定する際の参考にしてもらいたいということで、談話会有志が始めたものである。現在は入手可能な図鑑・文献も多くなり同定についてあまり困難を感じなくなったかもしれないが、変異の多い種・近似種などについては、資料が多い程より確実に同定出来ることを思うと、このような試みは意義あることと思われる。まだ2回目ではかないので何ともいえないが、普通種・変異の多い種・近似種などの同定のポイントをその解説なども加え掲載していくつもりである。

(1)(2)を見てもわかるように、同種のクモであっても、描く個体によって、検鏡する方向・倍率によって、又、描く人によってもかなりの差を結果的に表わしてしまっている。現段階ではこのような要因を全て含んだ結果を発表しているわけであるが、いずれその要因一つ一つを明確にしたものを発表していくような試みもしたいと考えている。又、幼生における同定の資料も加えていきたい。

この項について、多くの方々の意見と、掲載記事の投稿を望んでいる。

### 図版説明

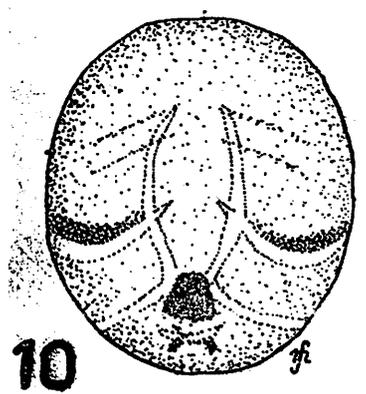
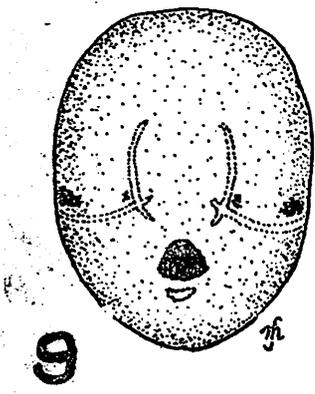
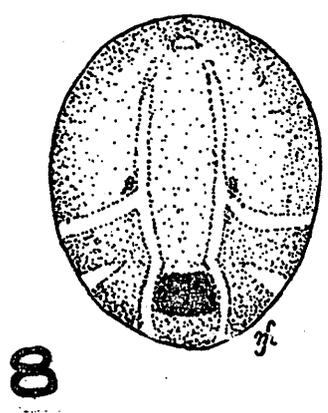
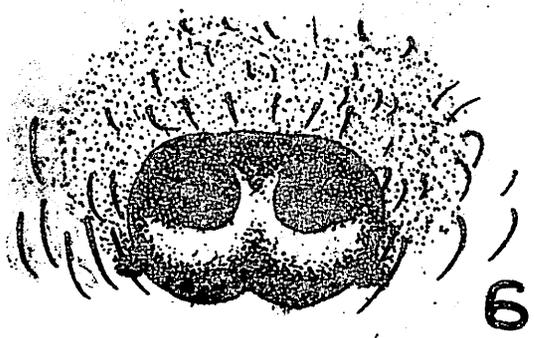
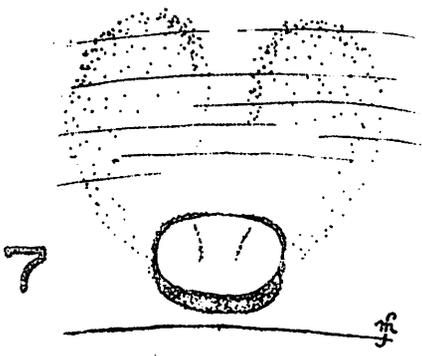
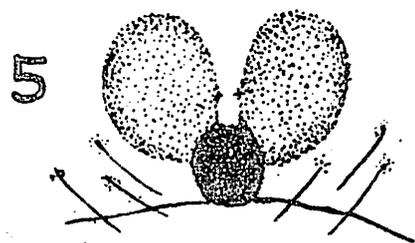
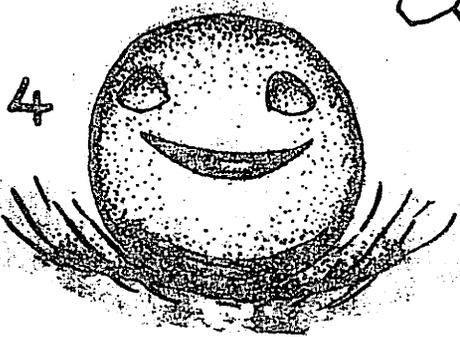
1~3 : 雄の触肢, 4~7 : 外雌器, 8~10 : 雄の腹部背面

1. オオヒメグモ *Theridion tipidariorum* (玉川学園, ×20, 石山原図)
2. 同上 (白浜, 22-III-1970, ×28, 権田原図)
3. 同上 (台湾 関西, 7-Ⅷ-1971, 石山原図)
4. タカユヒメグモ *Theridion takayense* (軽井沢, 22-VI-1969, 石山原図)<sup>※</sup>
5. 同上 (軽井沢, 3-Ⅷ-1970, ×30, 小野展嗣原図)<sup>※</sup>
6. ヒロハヒメグモ *Theridion latifolium* (高尾山, 24-V-1970, ×28, 石山原図)
7. 8. ヒメグモ *Theridion japonicum* (鋸山, 14-XI-1965, ×40, ×10, 松本原図)<sup>※※</sup>
9. 同上 (清澄山, 4-Ⅷ-1971, ×10, 松本原図)<sup>※※</sup>
10. 同上 (八王子, 31-Ⅷ-1970, ×10, 松本原図)<sup>※※</sup>

※ 4は5の中央の部分のみ、すなわち受精のうを除く部分の図である。

※※ 外雌器の開口部は単純な楕円形。外皮を通して受精のうがみえる。腹部の色彩は、全体に橙色で、白色条斑と黒色点斑をそなえる。液浸標本では橙色の地は淡褐色に変化していく。斑紋は変異多くほとんど消失しているものから明瞭なものまでであるが、腹部正中上の黒点と、糸疣上面の黒点(これは背面上方からはみえない)及び腹部下面糸疣前方の黒点は多くの個体に共通である。

# クモの固定ポイント(2)





15

16

17

18

19

20

## 感想文

### 滝山・蜘蛛観察会に思つた事

この日は、あいにく曇り空でしたが、高野伸二さんなどの鳥を研究されている方々も参加されて鳥の声を聞きながら、クモの観察会を行いました。

私が大学で所属しているクラブで、鳥をやっている連中、植物をやっている連中とよく観察会に行くのですが、きまって我々はいっしょに付いて行けず、おそいおそいと鳥・植物の連中に愚痴をこぼされます。その点、今度の観察会には、のんびりと観察が出来ました。また、人にはそれぞれ特有の採集の仕方、観察の仕方がありますので、いろいろな点で参考になりました。

鳥をやっている連中に、昆虫なり蜘蛛をやっている連中は、クモなり昆虫なりを見つけるとすぐ採集してアルコールづけにしてしまい、とよく言われますが、その通りだと思います。この日も高野伸二さんが、その事を言っておられました。すぐ採集してしまうのは我々の悪いクセだと解っているのですが、ついめんどくさくなってみんな採集してしまいます。今後、気をつけなければいけないと反省しています。

最後に残念に思ったのは、参加者が東京蜘蛛談話会のレギュラーでほとんど占められてしまって、一般の方々の参加が少なかったことでした。しかし、萱嶋先生を初め、蜘蛛を深く研究されている方の方、クモを観察しながらの、クモの生態や生理や分類の話は、私にとって大変勉強になりました。

(石山鉄幸)

### 東京蜘蛛談話会第2回観察会

期 日：1971年8月4日～6日

場 所：千葉県天津小湊町東大付属千葉演習林

参加者：石井・小野・国見・栗原・榎田・新海・高島・高橋・高林・松本・山川

東京蜘蛛談話会初めての強化合宿(?)が、千葉で行われた。参加者は、上記の若手 member 10名である。

大変なハードスケジュールで、東京から長時間の車の旅にもかかわらず、宿舎に夕方に着くや誰とも言わず一斉に外へ出て採集を行った。1日目は、札郷の作業所付近で2時間程採集を行った。この付近は、千葉とは思えないような山の深い所で、夕方ともなればひんやりとして心地良い位である。さて、2時間あまりの採集も終り、待ちに待った食事の時間。皆を驚かしたのが、どんぶりに山盛りのごはん、特に栗原さんと高林さんはもてあましていた感じ……。風呂に入り、サッパリして夜の meeting、それはとても楽しいものであった。井戸水でよく冷えたファンタを飲みながら、クモ談義や自然保護について、思う存分語り合った。特に話はずんだのは、クモ採集と自然保護の接点についての問題だった。

「クモを採集することが自然破壊になるのでは」という高林・栗原さんの純粋な問いに対して、様

々な意見の交換を行った。

確かに、自然に対して人為が加わることを、自然破壊というならば、クモを採集するということが自然破壊になる。しかし、これは極論であり、我々がクモを採集ということは、あくまでも学問研究の手段として行っているものであり、企業などが行い環境破壊とは、はっきり区別する必要があるだろう。

討論は尽きることなく続けられ、あっという間に数時間が経過してしまった。

2日目は朝から雨。近くのトンネルで採集を行った。雨にもかかわらず、それなりの成果をあげたようだ。

3日目は、消澄山に行き、採集を行った。

「トリノフンダマンがとれた」と栗原・高林さんは大喜び。初対面の喜びはひとときわだったらしい。こうして、楽しい3日間は、あっという間に過ぎ去ってしまった。

( 国 見 裕 久 )

### 第 3 回 奥 秩 父 観 察 会

集合時間を1時間ぐらい過ぎて西武三峰口駅に到着。もうみんな集まっていたが、初めての方が、一人まだ来ていない。(ほっとする。)連絡方法がなく、さらに30分ほど待ったが、結局7名で出発となった。新海さんと紅一点の新井さんの車2台に分乗して川又の宿へ。荷物を置いてさっそく付近へ採集に出る。天気が思わしくないが、採集地としてはかなり良い所で宿の近くから、セズガケジグモの網が点々とあった。帰りは雨に降られてしまった。

2日目は仏石山鍾乳洞の調査であるが、今回の調査で一番の目標であるこの洞の正確な場所がわからない。民家を尋ね、幸いにも路傍に小さな標識を見つけたが、それから洞を捜すのに一苦勞。鍾乳洞の調査は初めての者が半分であったが、泥まみれになって2時間程みんなよくがんばった。そして河原で昼食の後、三峰山登山口まで戻り付近で採集。

3日目も再び午前中ここで採集。合宿中ずっとお世話になった埼玉の大河内さんと新井さんに別れを告げ、5人を乗せた車は途中名栗の河又洞に寄って、一路東京へ向った。

合宿中ずっと車を使えたので広範囲に、且つ時間を有効に使えた。今後も観察会にできるだけ多数の方の参加を望む次第である。

( 権 田 重 雄 )

## 東京蜘蛛談話会 1971年の活動を省りみて

談話会員はそれぞれ活発に活動をしたことと思われるが、談話会として1971年に行った活動は会誌 KISHIDAIA を22号から28号まで発行したことと、3回の研修会——滝山城趾・清澄山・秩父——の開催であった。その他、会誌の編集及び会の世話をしたメンバーは、随時集まり話し合いをした。これらの活動について、編集及び世話役(?)のメンバーが反省会を開いた。以下、断片的ではあるが報告をして、今後の発展の資料としておきたい。

まず、会誌 KISHIDAIA があまり発行されず、合併号が多いとの指摘があったが、根本的な原因は原稿のないことであるとの合意を得た。これには会員全ての協力を促さねばならないとしながらも、いままでの内容が専門的でありすぎるとの意見があり、これからは随筆・紀行文・童話等をも掲載してゆきたい、クモに関するものであれば、また会員の投稿したものであればクモに関係なくとも掲載してもいいのではという発言もあった。勿論、いままで同様、リスト・生態記事等に重点を置いた内容でよいという意見もあった。会員全員が考慮すべき1972年からの課題であると思われる。また残念なのは投稿者が固定しかけていることである。幸い五周年記念号Iにはそれを打開する方向がみえた。会員諸氏の協力を感謝すると共に、より多くの投稿を期待している次第である。内容はあくまでもクモ愛好者の拡大を目的とし、多くの人に親しみ深く、かつ役立つものにしてゆきたい。

次に研修会が3回も開かれたことは大きな発展であるといえよう。この3回の研修には延べ36名の参加があった。そのうち2回は泊りがけの会であったが、予想以上の盛大なものにすることができた。合宿での成果は、いずれ本誌上で発表されるであろう。ただ残念に思うのは1970年11月29日に目黒区民会館で行ったような例会が開催できなかったことである。各自が非常に多忙中での観察会等の企画・実行であっただけに、客観的にみれば1971年の活動はこれが限界であったように思える。進行係の分業が行われれば、より変化に富んだ活動も活発にできると思う。

なおこの一年間で21名もの会員の増加があったことも指摘しておかねばならない。現在52名の会員の大多数が東亜蜘蛛学会に籍を置いている故に、関東支部のように受けとられることがときどきあるが、学会員でない人もおり、また談話会の現状を見ても支部とするには程遠い状態である。あくまでも愛好者として独立した活動を続けていくべきであると考えている。

数名が会合を持って話をしていた本会も、会誌の発行によって発展した。会員の増加につれて必然的に組織化・分業化してきたにもかかわらず、その組織が明確でないように思われる。いわゆるレギュラーメンバーは連絡も頻繁に行ない集まることが多いが、それではレギュラーメンバーだけが一緒に活動しているという旧態依然たる有様で、機関誌を持った会としての機能を充分果していないことになる。そこで1972年には組織構成を明確にしておかねばとの反省もあった。規約原案は有志によって作成されるにしても、全員による討議の後に承認を得たものにする必要がある。

(東京蜘蛛談話会)

# クモの文献転旋

クモの一般形態・生態と  
ニュージールランド産のクモの  
科の解説が出ています。

連絡は  
大河内さんか新海さん  
の方へおねがいます。

キシダイア  
バックナンバー

巻1～巻25 1部 50円

ただし  
合併号は 70円

5周年記念号⑩ (巻8・26-28)  
100円

全て送料は別です。  
1, 2, 11はコピーになります。

ニュージールランドのクモ(I) 一二四頁(図一八〇)  
R・R・FORSTER著 一九六七年  
三二四〇円(送料別)

(Ⅲ)まで発行  
されてるよ

余分の文献がありましたら連絡して下さい。ほしい人はいっぱいいます。

# 会 計 報 告

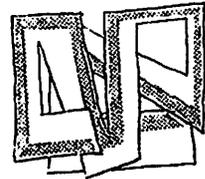
( 1 9 7 0 年 1 1 月 ~ 1 9 7 2 年 3 月 )

|                       |              |
|-----------------------|--------------|
| 1. 収 入 の 部            | 5 8, 2 3 0 円 |
| 繰 越 金                 | 1 0, 4 4 7   |
| 会 費                   | 3 2, 9 5 0   |
| 寄 附                   | 1, 9 1 5     |
| 別 刷 代                 | 2, 3 0 0     |
| バックナンバー売上げ            | 4, 1 0 0     |
| 例 会 残 金               | 6, 5 1 8     |
| 2. 支 出 の 部            | 1 6, 1 3 0 円 |
| 印 刷 代 ( № 2 0 ~ 2 8 ) | 1 0, 9 2 9   |
| 送 料                   | 4, 1 8 1     |
| 事 務 用 品               | 5 2 0        |
| 通 信 費                 | 5 0 0        |
| 3. 差 引 残 高            | 4 2, 1 0 0 円 |

以上の通り報告いたします。

昭和 4 7 年 4 月 3 0 日

大 河 内 哲 二



## 編 集 後 記

小沢実樹氏の描かれたワクワクするような表紙で記念号の(Ⅰ)と(Ⅱ)を発行できた。Ⅰ・Ⅱを合わせると50頁にもなろうという記念号である。Ⅱの内容は少々リスト過多症が現われ、アレルギーの出た方もいるのではないだろうか。それでも、その内3編は1971年の観察会の成績報告であるから許してもらえらると思う。Ⅰに掲載した高野氏の報文のような記事が多くの方からいただけるといいのにと、皆んなで話をした。また新昆虫・昆虫と自然の「ムシベン」欄に相当する(クモペンとでもいおうか)ものが、このキンダイアにも常設出来る楽しい誌面になると思う。

( 虎 )

談話会5周年記念号のⅡをやっとお届けすることができました。大変おそくなり申し訳ありませんでした。1号にバラエティをつけすぎてリストばかりが残ってしまいましたので、2号は上にも書かれているように相当すごいリスト偏重の号になりました。しかしクモの分布を調べる上では最も重要な資料ですから、今後も各地の方々に送っていただきどんどんリストを出して行きたいと考えています。またどんな小さな観察記録でも送って下さって「クモペン」設立に御協力をお願いします。クモは昆虫とちがって新発見のチャンスはいくらでもあります。えらい先生方はなかなか野外に出てクモを見ている暇はないでしょうから、どうか高校生の方などが新しい習性を見つけて下さい。

( 竜 )

KISHIDAIA Nos. 29~32

印刷 1972年5月10日  
発行 1972年5月11日

編集者 新 海 栄 一  
松 本 誠 治

東京蜘蛛談話会  
発行所 191 東京都日野市豊田1896  
萱 嶋 泉 方  
PHONE 0425(81)7128